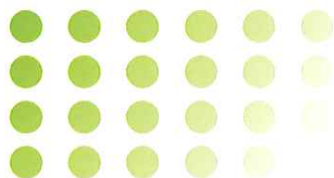


第12回

全国児童館・児童クラブあいち大会

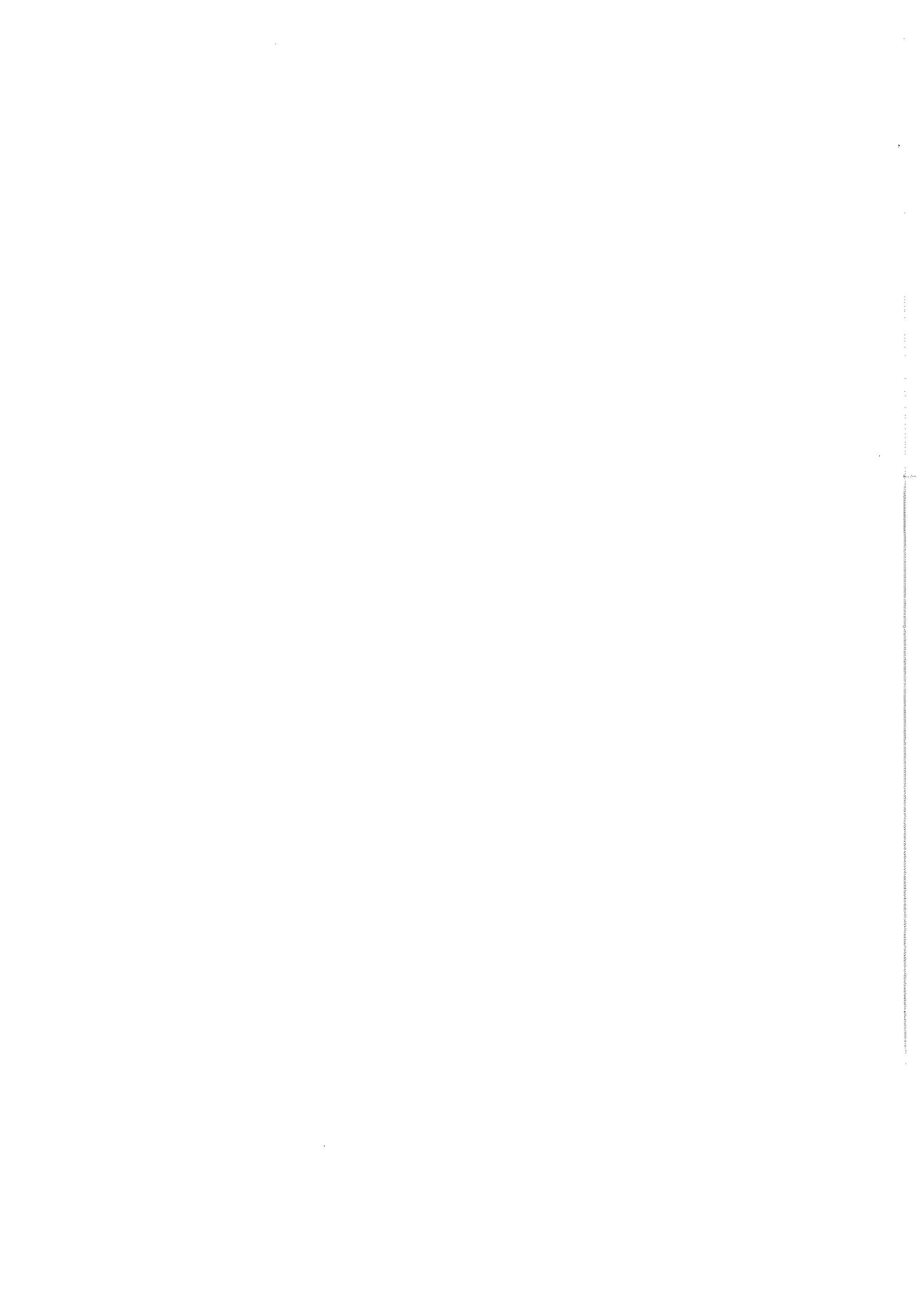
～子どもにかかわるプロとして 今から ここから 踏み出す一歩～

報告書



平成24年10月27日[土]・28日[日]

会場：ウインクあいち [愛知県産業労働センター]
JRセントラルタワーズ タワーズガーデン



発刊にあたって

平成24年10月27日・28日の2日間にわたり、“あいち”で初めて開催されました「第12回全国児童館・児童クラブあいち大会」は、全国から多くの関係者の皆さまをお迎えし、数多くの出会いとすばらしい成果を収め、盛会のうちにその幕を閉じることができました。

大会期間中、本大会の会場となったウインクあいちや「みんなのあそびば」を開催したJRセントラルタワーズ タワーズガーデンへ、一般参加者を含め全国の児童館・児童クラブの職員、約2,500人の方々が訪れていただき、参加していただいた皆さまと心一つになった心に残る大会となりましたことを主催者として大変うれしく思っております。

これもひとえに、ご尽力をいただいたすべての皆さまのご支援、ご協力の賜物と心から深く感謝申し上げます。

近年、子どもや子育て家庭を取りまく環境が日々変化している中で、児童の健全育成を担う児童館・児童クラブの役割はますます重要なものになってきております。このあいち大会では、すべての子どもたち、子育て家庭、地域の人々の居場所となる児童館・児童クラブの必要性を全国に発信するとともに、この大会に参加した全国の児童館・児童クラブの職員一人ひとりにとっても、人と人が互いに向き合い、気持ちを伝え、受けとめることの大切さと、子どもにかかわる職員として、専門性やプロ意識を掘り下げ、考える場になったものと確信しております。

今後も、このあいち大会を契機に、児童館・児童クラブ職員の資質向上や活動の活性化を図ってまいりますと考えております。

終わりに、今大会の成果が、いつまでも皆さまの心に残り続けるとともに、この報告書が全国児童館・児童クラブ大会の貴重な記録・資料として幅広く活用されることを祈念しまして、発刊のことばといたします。

平成25年2月

第12回全国児童館・児童クラブあいち大会実行委員会
実行委員長 西澤 章

目次

開催概要・日程	05
オープニングセレモニー	06
開会式	07
主催者あいさつ	08
来賓あいさつ	09
開催地あいさつ	10
基調講演	12
ライブペインティング	14
第1分科会	16
第2分科会	19
第3分科会	22
第4分科会	25
第5分科会	28
第6分科会	31
第7分科会	34
第8分科会	37
第9分科会	40
第10分科会	43
出前じどうかんーみんなのあそびばー	46
出前じどうかんーまなびのあそびばー	49
交流会	52
アピールカード	53
インターミッション	54
スイッチを入れる会	56
閉会式	57
全国児童館・児童クラブ関係者へ発議	58
大会を終えて	59
広報活動	60
委員名簿	62

開催概要

- 日時： 平成24年10月27日(土)・28日(日)
開会：10月27日(土)12:30～ 閉会：10月28日(日)13:00
※10月27日(土)10:00～15:00
出前じどうかんーみんなのあそびばー
10月27日(土)10:00～12:00
出前じどうかんーまなびのあそびばー
- 会場： ウィンクあいち [愛知県産業労働センター]
JRセントラルタワーズ タワーズガーデン
- 主催： 財団法人児童健全育成推進財団 全国児童厚生員研究協議会
愛知県児童館連絡協議会 名古屋市児童館連絡協議会
公益財団法人愛知公園協会
- 共催： 愛知県 名古屋市
- 主管： 第12回全国児童館・児童クラブあいち大会実行委員会
- 後援： 厚生労働省 社会福祉法人全国社会福祉協議会 公益財団法人児童育成協会
財団法人こども未来財団 民間児童館ネットワーク 全国地域活動連絡協議会
社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 社会福祉法人名古屋市社会福祉協議会
愛知県地域活動連絡協議会 中日新聞社

日程

10月27日(土)

- 10:00～15:00 出前じどうかんーみんなのあそびばー
10:00～12:00 出前じどうかんーまなびのあそびばー
12:30～13:15 オープニングセレモニー 開会式
13:15～14:15 基調講演
14:30～15:30 ライブペインティング
16:00～18:00 分科会Ⅰ
18:30～20:30 交流会

10月28日(日)

- 9:00～11:30 分科会Ⅱ
12:00～12:30 スイッチを入れる会
12:30～13:00 エンディングセレモニー 閉会式

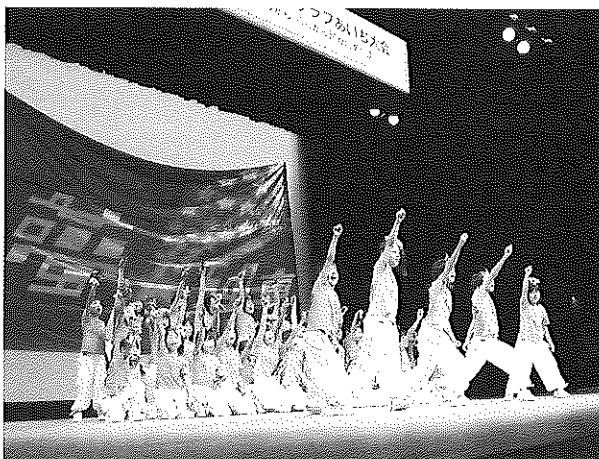
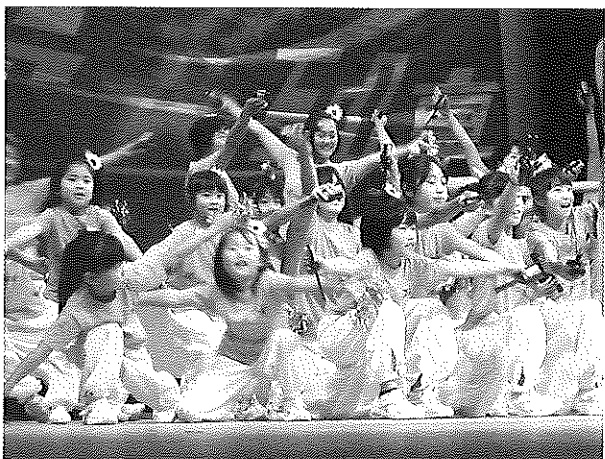
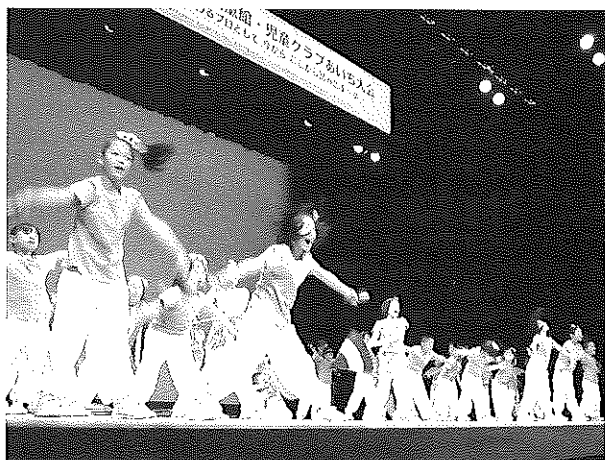
オープニングセレモニー

10月27日 12:30~12:45
ウインクあいち 2階大ホール

北なごや発 夢☆列車 演舞「夢、そして未来へ」

「子どもたちが『子どもらしく』輝けるように！」との思いと共に“心の居場所がある温かいチーム”にしたいという代表の柴田さんの思いが込められ結成された「北なごや発 夢☆列車」。別々の学校に通うさまざまな年齢の子たちが皆で踊る楽しさを知り、地域だけでなく遠征にも出かけ幅広く活動しています。

大会オープニングでは皆で作ったオリジナル曲「夢、そして未来へ」を元気いっぱい、笑顔いっぱい披露してくれました。一生懸命踊る子どもたちに会場の皆さんも手拍子で応援していました。



10月27日 12:45～13:15
ウインクあいち 2階大ホール

■ 開会宣言

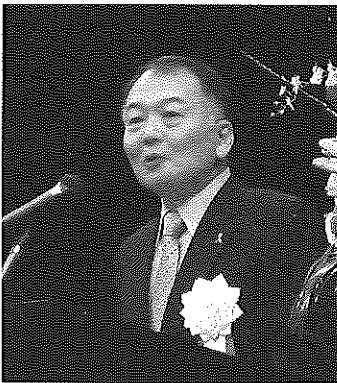
第12回全国児童館・児童クラブあいち大会 実行委員長
西澤 章



皆さま、こんにちは。ようこそ、あいち大会にお越しくださいました。心より歓迎を申し上げます。全国各地から多くの皆さまにご参加いただき、この愛知で、全国大会が開催できますことは、私どもにとって、このうえない喜びでございます。それでは、今日、明日の2日間が実り多い大会となりますことを願ひまして、これより「第12回全国児童館・児童クラブあいち大会」を開催させていただきます。2日間どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

■ 主催者あいさつ

財団法人児童健全育成推進財団 理事長
鈴木 一光



愛知県で児童館・放課後児童クラブの全国大会が開催されることになりました。ここに至る道のりは平坦ではなかったと推察いたします。ゴーギャンの有名な絵に「我々はどこから来たのか 我々は何者なのか 我々はどこへ行くのか」という長いタイトルの絵がございます。この絵に倣って今日は皆さまとこの大会の意義を確認し合いたいと思います。

「我々はどこから来たのか？」

我々は平成7年2月11日東京で第1回大会を立ち上げました。児童館をこよなく愛し、児童厚生員の仕事を天分だと思っている人たちが池袋サンシャインに330人集まりました。これに至るのに東京の児童厚生員さんによる4年間の“がんばれ東京の児童館”という自主研修がありました。元気をなくしつつある児童厚生員に呼びかけて、東京都児童会館の4階に500円持って50人が集合したのが発端であります。今や1,000人を越えることになったこの勢いというのは大変頼もしい限りであります。子どもが笑顔で幸せに育つことを、この国のためにも子どもたちのためにも一番大切だと思っている者たちがいます。そのために児童館や放課後児童クラブは有効であり役に立つと信じている者たちの集団であります。その我々としては、この児童館と放課後児童クラブで遊びを通して子どもを支援する有効性を、言葉をつくして、書き物にして、地域の人たちを説得する知性を持たなければなりません。

「我々はどこへ行くのか？」

子ども・子育て新システムによって、児童館は平成27年度から様変わりが予測されます。私たちはソーシャルワーカーとして、子どもを通して見た社会に矛盾があれば理知的に穏やかに世間に訴えていくソーシャルアクションも仕事の半分であります。今後、児童館・放課後児童クラブを市場主義の原理で引っ張って行くのか、それとも将来この国を担う国民を育てるための国策にするのか、この選択が迫られてくると思います。それに我々は専門職として応えていかなければならないと思います。0から18歳未満をみる施設は児童館しかない。遊びが発達に有効であることを知性的に説得していかなければならない。そういった研究会でもあると思っております。

あいち大会開催にあたり、その趣旨に賛同してくれた企業や一人一人のお気持ちがあつて今日を迎えられましたことを感謝申し上げます。

児童館・放課後児童クラブらしく楽しく勉強ができるよう祈念してごあいさつとさせていただきます。

■ 来賓あいさつ

厚生労働省 雇用均等・児童家庭局 育成環境課長
杉上 春彦



皆さんこんにちは。「第12回全国児童館・児童クラブあいち大会」の開催にあたりまして、一言ごあいさつをさせていただきたいと思います。

本日は全国から、児童館・放課後児童クラブに携わる方々、さまざまなサポートをいただいています方々も、中にはおられると思います。児童の健全育成に携わる大勢の皆さまが一同に会しますこの大会が成功することを、まず祈念いたしたいと思います。

また、この場をお借りしまして、皆さま方が日頃から健全育成の推進につきまして多大なるご理解ご協力をいただいていますことについても、深く感謝申し上げます。

急速な少子化の進行、核家族化、地域のつながりの希薄化など、子ども・家庭を巡る環境の変化の中、子どもや家庭への支援を、皆さま方の協力を得ながらしっかり取り組んでいくことが求められていると思っております。

申すまでもなく、児童館・放課後児童クラブは、地域における子どもたちの育ちを支え、また心身ともに健康で豊かな人間性を育む重要な拠点であり、地域の子育て家庭からの期待も大きいものがあると考えております。

児童館につきましては、更にその活動が地域の期待に応えるため、国としても児童館ガイドラインを作成いたしました。このガイドラインの内容を踏まえた実践を積み重ね、地域の子育て家庭にとって、真に必要な拠点としての役割を担うことが重要と考えております。

また、先の国会では「子ども・子育て支援関連3法案」が国会で成立しました。新しい制度につきましては、必要な財源を確保したうえで、早ければ平成27年4月から施行されることになっております。

新制度におきまして、放課後児童クラブは小学校4年生以上も含めた全ての留守家庭の小学生が利用できることを法律上明確化しました。また、国が定める基準を受けて市町村が放課後児童クラブの設備及び運営の基準を定めることとしております。

こういったことを通じまして、放課後児童クラブの更なる量的・質的な充実を考えております。

皆さま方には、この2日間の大会を通して、児童館・児童クラブに求められる役割を改めて考えていただき、現場での活動に役立てる有意義な大会となりますよう改めまして祈念いたしまして、開会のあいさつとさせていただきます。

■ 開催地あいさつ

愛知県副知事
高尾 和彦



本日は、全国各地から児童館や放課後児童クラブなどでご活躍中の方々にお集まりいただき、ここ愛知県で全国大会が盛大に開催されますことを大変、喜ばしく存じます。また、心から歓迎申し上げます。皆さま方におかれましては、子どもたちとの遊びや触れ合いはもとより、放課後児童クラブや幼児クラブなど子育て中の保護者の支援活動にも日々ご尽力いただいていると伺っております。改めて皆さまの日頃の活動に厚く感謝と敬意を表する次第です。

ご案内のとおり、児童館の役割は、遊びを通じて児童の心身の健康を増進し、情操を豊かにすることでありますが、近年では不登校やイジメ、児童虐待など学校や家庭における問題の早期発見の場や子どもの居場所としても、その役割が期待されています。

愛知県は、実は児童館が東京都、北海道に次いで全国で3番目に多い地域です。児童館活動が大変盛んであり、児童館同士の横のつながり、ネットワークも強固なことも特色の一つになっています。

愛知県児童総合センターでは、大人も楽しいと感じるような親子での遊びを提供しています。特に就学前の小さなお子さんを持つ親御さんたちを支えるための事業や、大学と連携した子育て支援者のためのセミナーの開催など各種の支援事業を実践しています。また県内270を超える児童館のセンターとして、遊びの指導者である児童厚生員やボランティアを対象とした研修の実施に加え、新しい遊びのプログラムの開発・普及にも努めているところです。

このあいち大会を通して、全国の児童館職員の皆さまが互いの知識、経験、情報を交換し、交流の輪がさらに大きく広がることを期待しております。

さて、愛知県は、自動車産業に代表される工業県のイメージが強いと思いますが、大都市圏に位置しながら、海あり、山ありの恵まれた自然環境があり、農業、漁業も盛んな地域です。また、ご承知のとおり、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康といった戦国時代の三英傑を生み出した地であり、食に関しても、八丁味噌などを使った「名古屋めし」と言われる特有な文化がございます。この機会に、愛知県の自然や歴史、文化の一端に触れていただければ幸いです。

大会の開催にあたり、準備業務に携わってきた実行委員、企画委員の方々のご労苦に感謝いたしますとともに、財団法人児童健全育成推進財団始め関係団体の皆さまに、一方ならぬご尽力を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。

終わりに、本大会のご成功とご参会の皆さまのますますのご活躍を祈念いたしましてごあいさつとさせていただきます。本日はおめでとうございます。

■ 開催地あいさつ

名古屋市副市長
住田 代一



本日は第12回全国児童館・児童クラブあいち大会が、全国から1,000人もの皆さまがお集まりになりこのように盛大に開催されましたこと、本当におめでとうございます。そして、開催にあたりましてご尽力いただきました関係者の皆さまに心より敬意を表する次第でございます。

ただ、これだけの方々がお集まりいただきまして、何をお話したら良いかと思っておりましたが、今実は名古屋市はさまざまな子どもの面で少し恥ずかしい思いをしながら行政をすすめております。それは待機児童が政令指定都市ワースト1であるということです。それから、あってはならないことですが、児童虐待で尊い命がなくなっています。そして、いじめに関しても重篤な懸案が続いておりますが、少子高齢化の中で将来を見通したときに、子どもの命を守り、子どもの将来を支える基盤を整備するためにどうしたら良いかということに、私どもは全力をあげて取り組んでおります。この問題は本当に大きく、市場経済の中でやっていくのか、我々が国策を受けて施策としてきちっとやっていくのか、大きな議論をさせていただいております。

そして、来年度の予算に向けても、とにかく子どものために、市長の言い方にしますと「おかあちゃんのために」という言い方をしますけれども、私どもは真摯にその言葉を受け止めまして、全力をあげて子どものために来年度予算の最大の施策のテーマとしてあげさせていただこうと思っています。

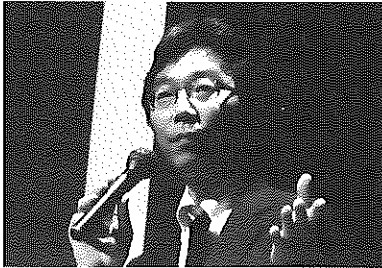
そういった中で、この愛知・名古屋で全国からお集まりいただき研鑽を積まれる機会を持っていただきましたことは、本当にありがたく思っております。是非とも皆さま方のお力で、研鑽の成果を是非とも私どもにお伝えいただきまして、少しでも子どもたちのために、子どもたちの未来のために役立てるようにしていければ本当に良いことです。

また、高尾副知事も言っておられましたが、今は大変良い季節でございます。この名古屋地方では「名古屋めし」というものも少し喧伝されるようになりました。是非とも研修が終わった後、少し濃い味でございますので、ビールやお酒を飲みながら味わっていただければ、皆さまの疲れもとれ、より実りのある、意味のある交流ができるのではないかと考えております。

最後になりましたが、本大会が素晴らしい大会に終わりますことを、そして、お集まりの皆さま方のますますのご健勝を祈念いたしまして、簡単ではございますがごあいさつとさせていただきます。本日はおめでとうございます。

■ タイトル ■

笑顔で接すれば笑顔が返ってくる ～テーマパークのホスピタリティ～



【講師】 福島 文二郎さん (JSパートナー株式会社 代表取締役)

【プロフィール】

株式会社オリエンタルランドの人事部ユニバーシティ課にてディズニー研修のプランニングや講師を務め、CS向上で大成功を収めるディズニーランドの人材育成を手がけてきた。CS向上を追求してきた経験を元に、現在人材育成の研修・講演を行っている。著書「9割がバイトでも最高のスタッフに育つディズニーの教え方」は50万部超えのベストセラー、第2弾「9割がバイトでも最高の感動が生まれるディズニーのホスピタリティ」も大好評。
※CS(Customer Satisfaction)=顧客満足

講演内容

ディズニーが素晴らしいと思うところは2つです。1つは、来場するお客様のほとんどがみんな笑顔であるということ。そしてもう1つは、「ありがとう」といった感謝の言葉が多いということ。それを生み出しているのがホスピタリティで、それはキャスト(従業員)が生み出していると感じます。ホスピタリティは「相手に対する主体的な思いやり」と解釈し、誰にでも持たなければならぬものです。

では、ホスピタリティをどうやって育てるのか？これを強く感じたのは、昨年の震災の後。揺れた後一番おびえていたのは子どもでした。それを見たキャストが「これを防災頭巾代わりに使って」ととっさに売り物のぬいぐるみを渡しました。そしてもう一言「ミッキーが応援してくれるからがんばろう」と付け加えました。これも目の前にいる子どもに対してのホスピタリティではないでしょうか。

今日は①ディズニーのお客様満足の考え方について②ディズニーではキャストに対してどのようなトレーニングや指導をしているのか③ホスピタリティについて、一緒に考えていきたいと思えます。

① ディズニーのお客様満足の考え方について

オリエンタルランドの正社員の数とアルバイト・パートの数の割合は1対9です。そして正社員は戦略室、営業、人事や総務に

所属し、ランドやシーで働いている者は少ないです。よってディズニーでお客様が接したキャストはほぼ100パーセントアルバイトです。ディズニーで働いているキャストは、働きがいを感じているキャストが多いのです。JS(ジョブ・サティスファクション)=職場満足という意味ですが、これを「働きがい」と訳しています。ディズニーで働いていることを、キャストは誇りに思っています。そして仕事そのものでいうと、皿洗いやトイレ掃除をしているキャストもいますが、そういう仕事であっても、手を抜くことはディズニーではありえません。

働きがいというのはどんな仕事でも感じることではできません。

働きがいを感じる人材の育成も含めて本題に入ると、ディズニーのお客様満足(顧客満足度=CS)とは、小さな感動をたくさん作るということ。お客様のいない時間帯にも小さな感動をたくさん作っています。当然オリエンタルランドは営利企業なので、小さな感動をたくさん作ることによって、売り上げや利益に繋がります。児童館であっても運営上お金は大事で、利益は結果です。小さな感動を作っていくと、予想外の感動を生み出す確率が高くなります。

小さな感動をたくさん作るCS。これを生み出しているのがキャスト。そのためキャストに対する教育をととても大事にしています。特に大切にしているのがディズニーで働くことに満足を感じてもらうこと(従

業員満足度=ES)。その中でも特にJS(働きがい)という部分を育てることを大切にしています。CSとESは自転車の両輪に例えられます。前輪がCS、後輪がES。自転車は駆動が後ろにあり、後輪が動かないとCSの部分は動き出さないからです。

働きがいはディズニートレーナーが作っています。新人キャストのトレーニングを担当し、サポートし、気持ちのよい状態で仕事をさせます。素晴らしいのは新人キャストを熱意と情熱を持って一生懸命育てていること。その熱意は新人キャストに伝わり、将来、先輩トレーナーのようになりたいと思うようになります。

② ディズニーではキャストに対してどのようなトレーニングや指導をしているのか

先ほどのCSとESの自転車にはキャスト全員が乗り、同じ方向に向かって進んでいきます。それをミッションと呼びます。それは「目指すべきゴール」で「全てのゲストにハピネス(幸福・幸せ)を提供すること」。そのためどのような行動をすべきか。優先順でI.安全性、II.礼儀正しさ、III.ショー、IV.効率の4つを行動の指針にしています。

子ども相手だと、予想外のマニュアルにないことが起こることが多いので、自分で考え、優先順に沿って動きなさいと教えています。その1番良い例が昨年の大震災の後のことです。

では、どんな指導をしているのか。

- I. 安全性…ルールを守らせること。
- II. 礼儀正しさ…元気のよいあいさつ。親しみのこもった笑顔。あいさつするときにはゲストの目を見てあいさつするアイコンタクト。この3つはキャスト同士も行ないます。スタッフ同士、会話のない職場、笑顔のない職場。そういう職場であったら、お客様にも笑顔やアイコンタクトはできないと考えています。
- III. ショー（五感を使って体験する3次元のショーで、人が感動するような物語を設定。）…守ってもらうことは次の2点。
 - (1) オンとオフの切り替え。オンは仕事。オフは私生活。
 - (2) 身だしなみ。記憶は最初と最後が残ります。
- IV. 効率…自分の役割を果たすこと。チームワークを発揮していくこと。1人プラス1人が、3人、4人以上の力を発揮します。

③ ホスピタリティについて

以上のことができていなければ、ホスピタリティは生まれてこないと考えます。また、1番大切なことは「一生懸命さ」。一生懸命さは、多少間違えたことをしていても相手に通じることが多いのです。

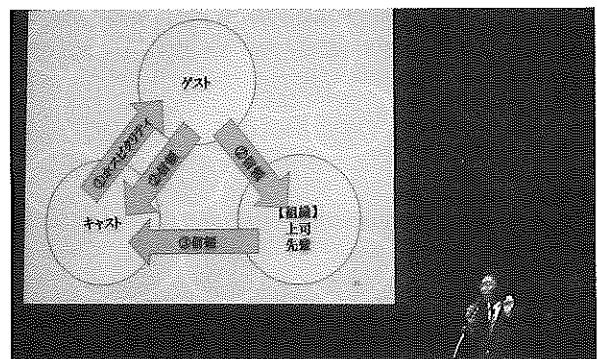
ではホスピタリティはどこからスタートし、どこで終わるのでしょうか。ホスピタリティは最初にお客様をよく見ているかどうか（目配り）からスタートします。目配りを発揮し、例えば泣いている迷子の子どものを見つけたらその子の気持ちになる（気配り）。目線を同じにして声をかけ、自分が誰かを理解してもらってから、一緒に親を探します。見つかって、子どもは楽しい気持ちに戻っていく。ここまでがホスピタリティの一連の流れです。ホスピタリティは知識や

技術があったほうが発揮されます。そのような知識や技術・能力のことを対人コミュニケーション能力・対人関係コミュニケーションと言います。社会の中ではこの対人コミュニケーションのスキルを持っていたほうが強みを発揮でき、成功の可能性を高めます。仕事は人を通じて行うからです。心遣いの3原則＝言葉遣いの3原則。明るく、やさしく、美しく。言葉は少し変えるだけで大きなホスピタリティを発揮できます。冒頭、ディズニーは「ありがとう」という感謝の言葉があふれていると話しました。感謝の言葉を生み出しているのはキャストです。キャストのホスピタリティ・マインドが発揮され、相手に対する主体的な思いやりを、対人コミュニケーション能力を使いながら言葉や行動で表現して信頼される。この信頼の証として、「ありがとう」といった感謝の言葉があるのではないのでしょうか。ただ、ディズニーでもキャストは全員それが出来ているとはいえません。これを、責任者やトレーナーができるように努力をします。ホスピタリティの気持ちができるようになったら「ありがとう」の信頼の言葉をもたらえるようになります。感謝されれば嬉しいものです。感謝の言葉をたくさんもらううちに、ホスピタリティ・マインドがだんだん成長していきます。信頼の証としてはお互いに褒め合うことです。たくさん褒めてくれる人は、だんだん信頼していくようになります。たとえば、仲が悪い同僚の人がいても、褒めることによって時間はかかるけれど、変わ

ってきます。ある程度信頼関係ができそのキャストが安全にかかわるミスをしたときはしっかり注意します。信頼関係ができていれば注意も聞いてくれます。もっと褒められたい、もっと感謝されたいと思って仕事してもらえれば、自分で知識や技術を高めていこうと考えるようになります。そのように行動する人を自立した人といい、自立した人は主体的にホスピタリティを発揮できるようになります。ディズニーのキャストはリーダーシップを持っているキャストが多いのです。人を導いていくリーダーシップの前に、自分の役割はちゃんと果たす。自分を導いていくリーダーシップを持っているキャストが多いと言えます。

「人は誰でも世界中でもっともすばらしい場所を夢に見る。想像し、デザインし、建設することができる。しかしその夢を現実にするのは、人である」

キャスト一人一人が最高のホスピタリティあふれるパフォーマンスを発揮し、最高のチームワークを発揮したとき、人が何回も見たい、来たい世界が出来上がります。この考え方はディズニーの世界だけではありません。児童館や児童クラブでもありません。すべての組織、すべての職場に通用する考え方です。



担当から

今回、児童館・児童クラブ職員が利用者に対してだけでなく、職場のスタッフ同士、または利用者同士でも、ホスピタリティ（相手に対する主体的な思いやり）を持つことが重要であることを学びました。また「ありがとう」の感謝の言葉があふれる場所にするには、ホスピタリティの気持ちで、一生懸命に人と接することが大事であることも学びました。

話の中で、小さな感動をたくさん作り出すことで予想もしないような感動を作り出すという部分にはとても共感しました。「全てのゲストにハピネスを提供する」といっ

たディズニーの目指すべきゴールは、児童館・児童クラブでも同じだと思います。子どもやその保護者が幸福感を持って利用できる空間にするには、職場のスタッフ全員で知恵を出し合うべきです。また、上司が部下を育てるために必要な技術や知識は、組織を円滑にするために不可欠です。部下のよい点を見出したらすぐ褒める。間違った考え方を持った部下に対しては熱意を持って根気強く正しい方向へ導く。その重要性を再認識することができました。

そして、ちょっとした言葉遣いで職場の雰囲気が変わっていくとのお話は、とても

参考になりました。

講演を聞き、自分の仕事に対する取り組み方、考え方の幅が広がったように感じます。今回学んだ様々な考え方は、「親しみのもてるあいさつ、笑顔、アイコンタクト」といった、すぐに実践できることばかりで、今後は学んだことを生かし、常に様々なことに目配り、気配りし、安全で親しみの持てる職場になるように努力をしたいと思えます。そして、児童館・児童クラブの利用者、スタッフ、全ての人がハピネスを感じられる場所にしていきたいです。

ライブペインティング

10月27日 14:30~15:30
ウインクあいち 2階大ホール

タイトル

自由度、進行形、荒井良二の仕事



【講師】 荒井 良二さん (絵本作家・イラストレーター)

【プロフィール】

1956年山形県生まれ。絵本作品のほか、イラストレーション、小説の装画、挿絵、広告、舞台美術、アニメーションなど幅広く活躍。絵本に『はっぴいさん』『たいようオルガン』『えほんのこども』、作品集に『metaめた』他多数。2005年にはスウェーデンの児童少年文学賞「アストリッド・リンドグレン記念文学賞」を日本人で初めて受賞。『あさになったのでまどをあけますよ』で産経児童出版文化賞大賞受賞。近刊は『ねむりひめ』『なんていいんだぼくのせかい』

内容

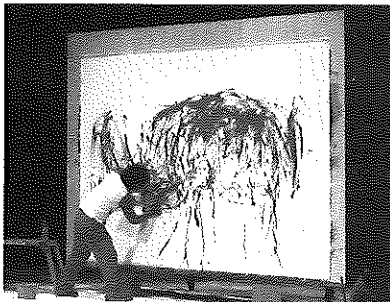
現在放映中のNHK朝の連続ドラマ「純と愛」の題字やオープニングイラストを描いた荒井良二さんのライブ・ペインティングは、まさに「自由度、進行形、荒井良二の仕事」。

ステージ中央に置かれた2m×3mの大きなキャンバスには、さまざまな絵が描かれては塗りつぶされ、次々と場面が展開されました。

絵の具のチューブから直接キャンバスに描いたり、筆ではなく手や段ボールの切れ端を使う手法も独特でダイナミック。

参加者との質疑応答を途中にはさみながら進み、予定の1時間はあっという間に過ぎていきました。

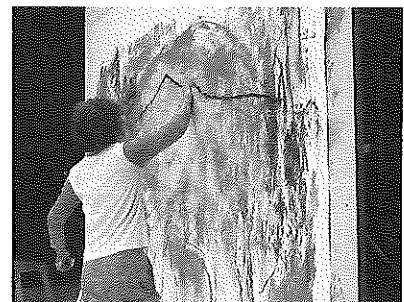
ライブ・ペインティングをしながら荒井さんが話してくれた「止まっているのがプロとは思えない。そんな枠組みを突き抜きたい。」という言葉が印象的でした。



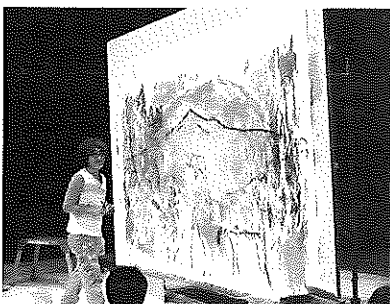
絵の具のチューブから2m×3mのキャンバスに直接描きます。



筆を持つと絵が賢くなる。絵が賢くなるとつまらん。」



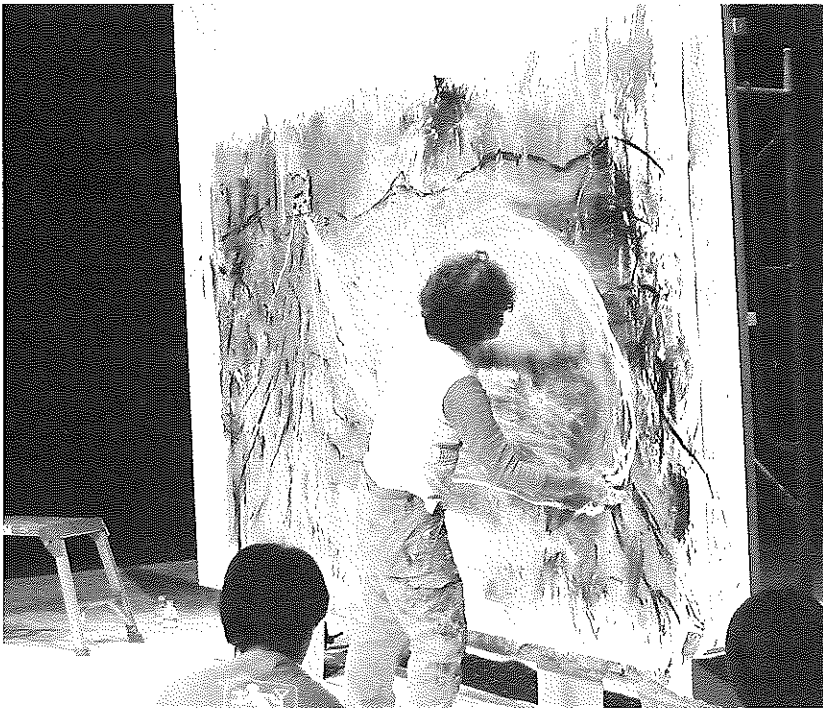
「絵を描くのが好きじゃない子には無理強いしなくていい。上手に描くことなんか大したことないから。」



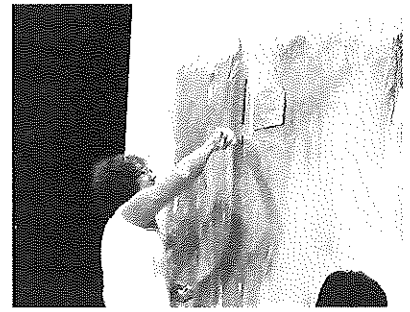
「絵を描く上では特に好きな色はない。身に付けるものは赤。」



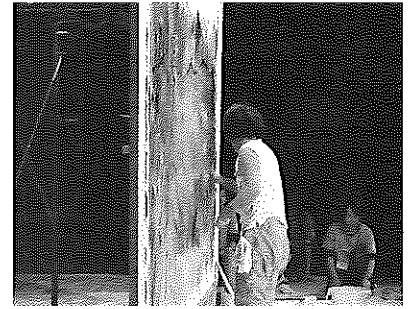
「大人と子どもの境目ってないと思う。いつも大人だったり、子どもだったりの部分が伸び縮みしてる。」



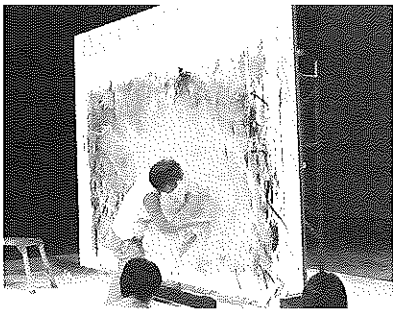
「感情を入れなくても絵は描ける。感情の先に行きたいんだよね。絵を描いてみれば判るよ。」



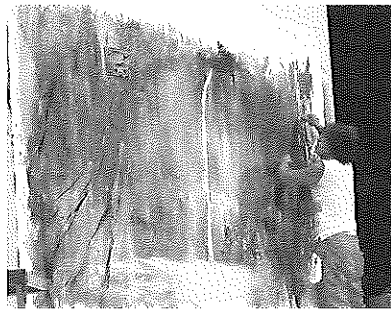
「描かれては塗りつぶされ、絵は次々と変わっていきます。」



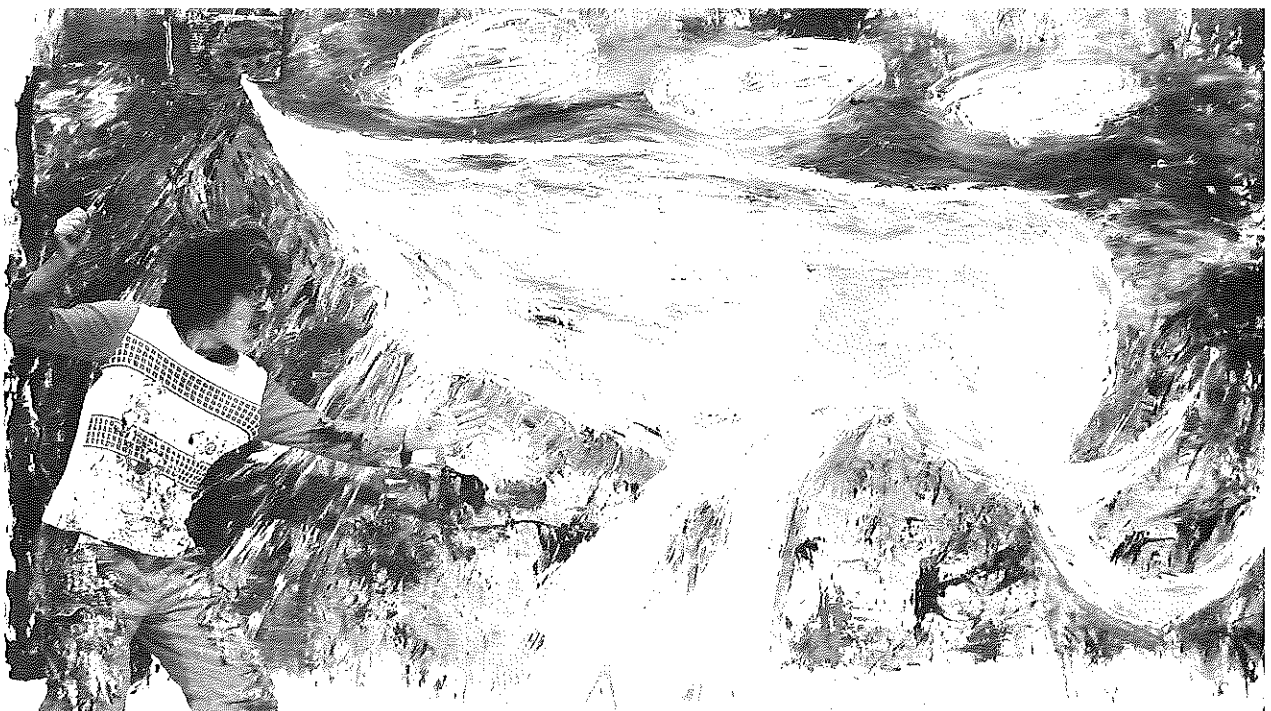
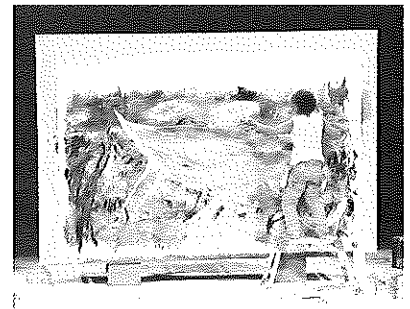
「消した理由は判らない。」



「大人って答えを知りたいがるよね。」



「自由ってみんなが持っている広場みたいなもの。それをどう使うか考えるのが自由。誰かがいたり、自然があったり、町があったり、動物がいたり。ひとりぼっちはあり得ない、自由って。」



「完成はしない。ライブペインティングって完成じゃなくて、時間を共有したのだけが知りえるディテール、細部、場面、色が共有できたらそれが一番楽しい。」

第1分科会

分科会Ⅰ 10月27日 16:00～18:00
分科会Ⅱ 10月28日 9:30～11:30
ウイंकあいち 12階 1201

子どもの居場所づくり

自分がだせるもうひとつのいい場所



【アドバイザー】 杉村 秀充さん

【プロフィール】

名城大学教育センター非常勤講師。上級カウンセラーSMILEリーダー。ELM勇気づけリーダー・トレーナー。平成22年に愛知県稲沢市小学校校長を退職。現在は応用教育研究参与研修主事。

問題意識

家でも学校でもいい子、でも児童館では思うまま気持ちを出し、ルールも守れずトラブルを起こす「児童館弁慶」と言えるような子どもの姿がみられます。また複雑な家庭環境の中で育っている子、不登校、いじめを受けている子等問題を抱えている子もいます。その背景には子どもの数の減少、地域社会の未熟さ、遊びや生活環境の変化等があります。その結果子どもたちが異年齢の友だちと一緒に遊ぶことや地域の人々と接する機会が減少し、集団の中で上手に人間関係を築いていくことができなくなっています。そのような中、子どもたちは何を目的に児童館に通って来るのでしょうか。子どもたちにとって魅力のある居場所作りを親でも、先生でもない厚生員がどのように受けとめ、環境を整え、支援する方法があるのか等を話し合い学びましょう。

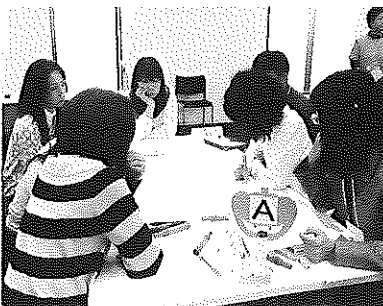
内容

■ 1日目

① グループワーク

児童館弁慶の子ども達の姿について子どもにとって児童館はどのような居場所になっているか。どのような環境を整えているか。

上記について携わっている 1.児童館、2.児童館・児童クラブ併設、3.児童クラブにわかれ意見を出し合い発表する。



② 発表より

1日目は3点について話し合った。

☆児童館弁慶の子ども達の姿について

- ・自分の気持ちを解放しありのままの姿を出す。
- ・けんかをする。
- ・トラブルを起こす。
- ・わがままを言う。
- ・学校でも家でもみせない姿がみられ心を解放している。
- ・ストレスを発散する。
- ・友だちとコミュニケーションがとれないので自分勝手な行動が多い。

☆子どもにとって児童館はどのような居場所になっているか。

- ・学校とは違って居心地の良い場所。
- ・人と人をつなぐ安心できる場所。
- ・厚生員が受けとめてくれる、褒めてくれる、認めてくれる場所。
- ・リラックスできる場所。
- ・評価されない場所。

- ・寂しい子どもの居場所。
- ・制限がなく遊ぶことができる。
- ・親にもなかなか言えないことを言える場所。
- ・異年齢児との交流が自然に行うことができる場所。
- ・困った時に来て安心できる場所。
- ・自分が出せる場所。
- ・友だちと上手にかかわれなくても、厚生員にべたべたと甘え独占できる場所。

☆どのような環境を整えているか。

- ・学校と連携するための場を持つ。
- ・役割分担を持たせる。
- ・子どもにとって魅力のある活動。
- ・子どもたちの良い所や得意な所を認めてあげる。
- ・学校や家ではできない遊びができる。
- ・保護者のニーズに寄り添い安心して預けることができるようにする。
- ・日頃から子どもに関心を持ち、大切に思われているんだなと感じられるよう

にする。

- ・気になる子、障がい児には加配がついている。

◎不登校の子どもの保護者が学校の先生になかなか言えないことを厚生員に相談することがあるので、家庭と児童館、学校との連携がとれるようにしていく。

◎学校・行政・厚生員・保護者が情報交換し、連携を図ることが大事である。児童クラブと一般の子が遊ぶ「交流の場」を毎月設けている。地域、ボランティアの人たちも行事に参加して頂き、子どもを育てていく。

③ アドバイザーより

- ・学校では出せない姿をみせることはとても良いことで、その子にとって救いである。気持ちを解放しありのままの姿をみせる。
- ・気持ちを解放し、ありのままの姿をみせる子にとって厚生員はどのように対応したり、援助したりすると良いかという意見が多く出された。
- ・「注目を浴びたい」という思いから問題行動を起こすが怒ってはいけな。注意するときは「Iメッセージ」＝「私は悲しい」というように自分の思いを伝え、その行動を注意すると良い。
- ・良い所を褒めて伸ばすための活躍の場を設け、その行動を認めるようにする。
- ・「元気に遊んでいるね」「今日も来てくれたね」等、子どもたちの行動をそのまま受けとめ、言葉でその姿を伝えることによって子どもたちは嬉しい気持ちになれる。
- ・学校ではなかなかできない異年齢交流

が児童館では毎日でき、人間関係作りには良い場所である。

- ・貢献感を持たせることが大切である。

■ 2 日 目

① グループワーク

- どのようにすると居心地のいい場所になるか。
- 現場で実施している事例について。上記について1日目と同じグループ別で2点について話し合った。

② 発表より

☆どのようにすると居心地の良い場所になるか

- ・ルールを子どもに考えさせる。
- ・役割を決める。
- ・子どもが活躍できる場を作ってあげる。
- ・児童クラブの子は一般来館の子をうらやましく思う一方で、一緒に過ごすことで刺激を受けている姿も見られる。子どもが自立していくようになっている場にも感じる。
- ・厚生員同士の連携をきちんととることで子どもにも笑顔が見られる。子どもの話をよく聞く。
- ・厚生員の資質向上。研修参加。
- ・厚生員同士連携をとり、一人一人の様子をよくみる。児童クラブに来所した時は「お帰り」と笑顔で接する。
- ・地域との連携で市民祭りや地域の行事に参加することで見守られていると感じる場所。

☆事例

- 子どもが企画案を立てる。

(例)高学年が手本となり一輪車講習、トランプ、将棋大会、Kidsフリーマーケットの開催。

手のかかる子もリーダーシップを発揮する。厚生員が温かく見守ることによって達成感、満足感を味わい次の意欲につながる。その場を保障することで居心地が良いと感じる。子どもの力を信じることで居心地の良さにつながる。発表できる場所を設けることで自信がつく。

異年齢交流で子どもとのつながりも深くなる。

◎児童館や児童クラブだけではなく、地域全体で育てると明日も来なくなる場所になるのではないのでしょうか。

③ アドバイザーより

- ・子どもたちが居心地が良いと感じるには第1に安心・安全な施設であること。いじめられている子、虐待されている子たちも児童館に行ったら優しい厚生員、友だちがいるということで安心する。
- 第2に認めてもらえることで存在感、自己肯定感を感じる。
- 子どもが児童館の活動に参画することにより、自ら考え学ぶことができる。失敗しても考えてみようとするのが良い機会となり、家や学校ではできない経験が児童館ではできる。また、母親が失敗しないように先回りしてしまうこともあるので、子ども自身が「なぜ失敗したか？」と考える機会を与えてあげたい。





担当から

この分科会でどのような意見が出されるかとても楽しみでした。グループを1.児童館、2.児童館・児童クラブ併設、3.児童クラブの3つにわけ、分科会を進めましたが、参加者の思いや子どもの姿等について活発に話し合われました。話し合いがスムーズに進んだことは良かったのではないかと思います。話し合いの内容を書きとめていくことも各グループが工夫されていて素晴らしいと感じました。

この2日間を通して自分たちが日頃感じていた学校や家でもみせない子どもの姿が多く意見として出されました。それに対して「どのように環境を整えるのか」「対応の仕方もその場その姿によってさまざまな形がある」こと等沢山の意見が出され、「思いは皆同じである」と感じました。アドバイザーの杉村先生からアドバイスを頂き、今後のあり方、子どもとの接し方等が明確になり安心感を持つことができました。自由

に過ごせる「居場所」から誰からも必要とされ頼られる、子どもにとって心地良い「居場所」となるように厚生員同士の共通理解、他の機関との連携も大切にしていきたいです。

保護者は何が良いかわかっていてもできないこともあると思います。厚生員の思いを保護者に押し付けないように支援し、良き理解者になれるよう嬉しさや悲しさ等さまざまな気持ちを受けとめ、信頼関係を深めていきたいと思っています。しかし、厚生員ばかりが頑張っても十分な成果を出すことができません。地域の人たちを巻き込みながら社会全体で子どもを見守り、次への活動へと結び付けていく必要があります。児童館・児童センターは、地域のつながりと共に安心、安全な場として、また子どもたちの居場所となれるよう信頼関係を深め、一人一人を大切にしておかかわってまいります。

参加者アンケートから

- ・この児童館も同じような現状であることが再確認できました。この第1分科会は基調講演と通じるものがあったので、大変勉強になりました。行事の事例が参考になりました。
- ・情報交換の中で同じ悩みを抱えていることがわかり、また新しいアイデアをもらえて面白かったです。
- ・人の頭の中は色々違ったり、同様であったりを短時間で体感しました。皆で意見を出し合う大切さを学びました。
- ・他の児童館の方と現状や課題を話し合うことができ、とても勉強になりました。

第2分科会

分科会Ⅰ 10月27日 16:00～18:00

分科会Ⅱ 10月28日 9:30～11:30

ウインクあいち 12階 1202

親支援

われら子育て応援団！！ ～親が笑えば子どもも笑う～



【アドバイザー】坂部 三枝子さん

【プロフィール】

西尾市公立保育園にて長年、保育士、園長として勤められ、その後は市役所にて課長補佐、主幹となって保育指導担当。退職後は、愛知教育大学で、乳児保育を専門に非常勤講師として勤務されていた。現在は西尾市の新規採用保育士研修の講師もされていた。保育園では、園児の保護者から育児相談を受けたり、子育てに関する悩みなどを一緒に考えたりしながら、保育の一環として、子育て支援に力を注いだ。また、新規採用保育士研修では、経験の浅い若い保育士に対して、親支援の大切さを伝えながら、人材の育成にかかわっている。

問題意識

毎日、家事や育児を頑張っているお母さんやお父さん。しかし頑張り過ぎたり、周りに話す人がいなかったりで、ストレスがたまったり、不安を感じたりしており、笑顔が消えてしまった…また、子どもと遊んでいても笑顔がみられないお母さんやお父さんってみかけませんか？育児ってどんなに頑張ってもなかなか上手くいきませんよね。そうすると、「自分のやり方がダメなんじゃないか…」「自分は子育てに向いていないのではないかな…」と自分を責めるようになってしまいます。

そんなお母さんやお父さんに笑顔で子育てをしてもらいたい、と私たちは願っています。育児に疲れているお母さん、お父さんの笑顔を取り戻すために、児童館・児童クラブ職員にはどんなことができるのでしょうか？全国の皆さんで、笑顔たっぷりのビタミン剤を作り出しましょう！

内容

■ 1日目

- ・アイスブレイク
- ・ディスカッション(マップ形式)
- ・処方箋を持ち帰る
- ・まとめ

1日目は、6～7人で構成された10グループが親支援を柱に今抱えている課題や悩みを率直に話し合い、なぜ問題なのか、その背景は？それぞれ「今、自分たちの館や児童クラブで問題になっている(困っている)こと」を出し合ってもらい、その中から、テーマを決めていただきました。以下が10グループから出たディスカッションのテーマです。グループは、同じ県の人と一緒にならないように調整しました。

<10グループのディスカッションのテーマ> (問題点と解決策)

① 孤立した親

- ・1対1で話をして親の気持ちがほぐれ

るような話し方をする

② 親への対応

- ・職員が親とのコミュニケーションをとる。笑顔で接する。

③ 保護者とのコミュニケーション

- ・笑顔が一番。保護者を労う、褒める。

④ 当たり前のことが当たり前できない

- ・まずは挨拶から始める。親も認めてもらいたい、褒められたいという気持ちを理解する。

⑤ 今の母親の気持ち

- ・メールばかりしている親の気持ち、「ここに来てほっとしたい」という親の気持ちを理解しつつ、メールをしないうルールを作ろう！

⑥ 子どもの気持ちがわからない保護者

- ・子どもの良いところ、子どもの様子を見て親が気付いていない所を知らせる。

⑦ 気になる親

- ・機会をみつけて話す。寄り添う。お母さんの話を聞いてあげる。

⑧ スタッフが少ない中でのきめ細かい親支援の仕方

- ・スタッフだけでやろうとしない、ネットワークを広げる。ボランティア・地域でかかわっていただける方を増やす。

⑨ 親と子のかかわり

- ・親が子どもとのかかわり方がわからないため、親育てが必要である。



⑩ 問題行動を起こす子どもの保護者の対応

・子どもの良いところを見つけ、コミュニケーションを深め、長時間掛けて親との信頼関係を築きあげていく。

～アドバイザーより～

どのグループも「児童厚生員や児童クラブの先生がどのように親とのコミュニケーションをとると良いのか」ということを問題にしていると感じました。10グループそれぞれで背景を探り、どうしてかと考え話し合う中で、解決の糸口を見つけ出していました。

親を非難するのではなく大変さや頑張りを受けて、じっくりと寄り添って信頼関係を築き、良い方向を私たちが示してあげて、親の育児力を高めていこう！というのが親支援の姿勢であると思います。

例えば、児童クラブの子であれば、お母さんが迎えに来てくれた時、「お母さん、ありがとう!!」と言うと、お母さんの気分は良くなります。子どもの発達過程を知っていれば適切な助言ができ、お母さんの気持ちを理解し、良き相談相手になってあげることができます。

このような小さな積み重ねが、親の心を落ち着かせ、子育てが楽しくなり、子育てをすることに自信がつかます。それが、お母さんの生きる力になり、子どもの生きる力になっていきます。

子どもの様子をさりげなくみて、良いところを褒めていき、認めていくことが大切です。

「まずはあいさつから始めよう！」そして、お母さんたちの育児に対するストレスを取り除いてあげるためにも、リラックスできるようなこと、例えば大人向けの本を読むなど…お母さんタイムを設けると良いのではないのでしょうか。素敵な詩の紹介をします。

【みつはしちかこさんの詩】

お母さん
忙しさを
追いかけないで
時に
ふりまわされないで
赤ちゃんは すぐに
赤ちゃんでなくなってしまう
だから、今
ここにいて
あなたのかわいい赤ちゃんを
たっぷり みつめて
たっぷり 抱いて
赤ちゃんの心のはじまりに
お母さんの やさしい
微笑みの花が
咲いていますように

最後に…児童厚生員が常にやさしく笑顔で接することが親支援をするうえで重要ではないでしょうか。

■ 2日目

- ・アイスブレイク
- ・前日まとめ
- ・ディスカッション
(ワールドカフェ方式)
- ・ビタミン剤を持ち帰る
- ・笑顔の写真(パワーポイント映像)
- ・まとめ

2日目は、1グループを5人にして、ワールドカフェという手法で話し合いを進めました。ミツバチの「他花受粉」のように色々なグループに情報を広めることができました。テーマは「お母さん・お父さんを元気にさせるには…私たちができること」で、どのグループも皆同じテーマで話し合いました。ワールドカフェというのは、カフェのよう

に、気軽に話し合えるということが目的です。私たちにどんなことができるか、今どんなことで笑顔に、そして元気になってもらっているのかなど、どのグループも笑顔で、話しやすい雰囲気の中で、色々な意見が飛び交っていました。またメンバーチェンジをすることによって、他グループとも意見を共有することができました。多くの参加者がいるため、少人数のグループで話をしても全員と話をしているような感覚でとても有意義な時間が持てました。

～アドバイザーより～

親が親として、将来の見通しができて、自信を持ったとき、本物の笑顔が出てきます。

- ① 明るい挨拶
- ② 笑顔で元気良く
- ③ 五感をフル活動、相手の状態を敏感に感じ取る力
- ④ 子どものことをさりげなく観察、理解し伝える力、良い所を認める
- ⑤ 保護者の話し相手になるとともに、子どもの話し相手になる力(傾聴)、耳を傾け確認する
- ⑥ 親の気持ちに共感する力
- ⑦ 楽しい企画をする力
- ⑧ お母さんの輪を広げてあげる力
- ⑨ 地域や関係機関(保健センター、保健師さん)と連携する力

このような9つのビタミン剤を持っていればお母さん、お父さんたちが安心して児童館で楽しく過ごすことができます。そして、本物の笑顔になれる時が来るかなと思います。ビタミン剤は1日の摂取量は少ない栄養素だと思えますが、車で例えるとエンジンオイルのようなもの。潤滑剤でもあり、沢山摂取しなくても少しずつ効果的に活用すると良いと思います。





担当から

親支援していくうえで今、抱えている問題点などを、グループディスカッション(マップ形式・ワールドカフェ形式)で話し合い、少しでも解決策への糸口がみつけれられたのではないかと思います。そして処方箋や、ビタミン剤といった明日からの元気のもとを持ち帰ることができ、有意義な話し合いができたと思います。

親支援というのは、本当に奥が深いと感じました。お母さんたちが笑顔で子どもに接すると、自然に子どもも笑顔になります。お母さんたちが何か相談してみえた時は非難するのではなく、大変さや頑張りを認めて、良い方向を示してあげることが大切であると改めて感じました。

アドバイザーの坂部先生には、お母さんたちが自信を持って子育てができるように、また児童厚生員や児童クラブの職員が、今後この分科会で学んだことを現場で活かしていけるようにと色々と言言をいただきました。両日共共、皆さん、良い顔をして話し合われており、とても良い雰囲気でした。

参加者の皆さんの熱心さや笑顔のおかげで、この分科会が進められました。本当に感謝しています。ありがとうございました。

参加者アンケートから

- ・ワールドカフェでは、親支援について話し合いをしたことで、大切なことをいっぱい学びました。「笑顔」にすることは、本当に大切だと思いました。私自身、自信がなく不安でいっぱいな日々でしたが、自信を持てるひとつのビタミン剤になりました。
- ・今回行った「処方箋やビタミン剤に自分が学んだことを記入して持ち帰る」というのは遊び心もあり、自分のためにもなるのですごく良い方法だと思いました。
- ・笑顔は元気のもと、子どもも親も笑顔でいられるには、私たち児童厚生員が子どもの良さ、親の良さを笑顔で伝えられる場を作り、親が笑顔で余裕が持てると子どもも笑顔になるということがわかりました。
- ・困っている親、悩んでいる親のそれぞれ抱えている問題はさまざまでも、児童館や学童保育の「声掛け」「コミュニケーション」がどんな時でも助けるための第一歩になるのかと感じました。
- ・親支援って本当に大切だと思いました。親がかわれば、子どももかわる！さまざまな経験をさせたい、自分も色々な経験をしていきたいと思いました。
- ・グループの人と日頃、思っていることを話し合え、とても良かった。自分なりに整理ができ、今後の活動に向けて活用していきたいと思います。

第3分科会

分科会Ⅰ 10月27日 16:00~18:00
分科会Ⅱ 10月28日 9:30~11:30
ウインクあいち 10階 1007

「企画力」

夢プロジェクトX



【アドバイザー】長崎 由紀さん

【プロフィール】

岩手県立児童館いわて子どもの森チーフプレーリーダー。岩手県盛岡市出身。盛岡市の学童保育クラブ勤務を経て、平成15年より「岩手県立児童館いわて子どもの森」のプレーリーダーとして勤務。平成21年度からは、チーフプレーリーダーとしてイベントやワークショップの企画・運営、子育て支援者(保育士、児童館職員、ボランティア等)の研修等を行っている。平成20年度から盛岡大学短期大学部幼児教育科の非常勤講師も勤める。また、平成18年には子育てを応援する団体「あそびma・senka」を結成し活動している。

【お手伝い】阿南 健太郎さん (財団法人児童健全育成推進財団)

問題意識

「子どもたちを惹きつける魅力って何?」「子どもたちはどんなことを児童館・児童クラブでやりたいと思っているの?」と、私たち職員は常に考えていると思います。しかし理想や考えがあっても周囲に上手く伝えきれず理解されなかったり、実現できない物的事情や環境が発想の邪魔をしたりしませんか?

今回の研修では子どもたちがどんな「夢」を児童館・児童クラブに抱いているのかをテーマに実現できないからと諦めがちだった内容を、実現するために力を借りる『場所』や『コラボレーション』を視野に入れて発想を広げます。

また、決まった企画を周囲に知らせるにはどういう形で知らせると印象に残るのか、皆でアイデアを出し合い考えていきたいと思います。

内容

■ 1日目

1 アドバイザーより

「いわて子どもの森」の取り組みの紹介

☆館内の設定について

- ・おもちゃゆ:
お風呂のお湯がおもちゃという設定。
- ・館内の廊下に獣がのぞいているのか体の一部が見えている冷蔵庫がある。
→館内のスタンプラリーの一箇所だが、気になった子が開けるとスタンプがある。

館内の遊びに関して、どうして欲しいかについて文字での具体的な表示はしていない。気になるような仕掛けにより、子どもを自然な流れの中で誘い掛ける。

☆ワークショップの企画

- ・どろてん(泥+露天)風呂:
左官屋さんに協力してもらいきめの細かい泥を用意し、泥の露天風呂を作る。
→泥の粒子が細かいので体が浮くとい

うことを発見。

- ・泥団子を作って遊ぶ中で、団子を焼いたらどうなる?と気にして焼いてみる。その様子を見ている大人は「何しているの?」と聞くが、子どもにとっては、思い付きを行動にうつすだけで、「何のため」という目的や理由はない。焼いた泥団子は硬くなり、硬さを試すうちに割れた。子どもは、やりたいことをやった満足感に満ちている。

☆企画について思い付くタイミングはどんな時?

- ・子どもたちとのかかわりの中にヒントがある。
- ・子どもたちの喜ぶ顔を見ている時。
- ・会議室で「よ〜し企画会議を!」というかつちりした会議を行う中では、なかなか良いアイデアが浮かばない。お茶とお菓子のリラックスした時間の中

でやわらかくなった頭でいる時に浮かぶ。

2 子どもたちの目線になって夢を考える

各自A4用紙に「子どもがやりたいと思っている夢」をひとつ書き出し、グループ内で個々の提案内容を共有し合う。

みんなのアイデアを得るため、掲示ボードを隣のグループに渡す。新たな提案内容に対し、コラボレーション(協働)したい相手と開催場所を付箋に書き出し掲示ボードに貼り付けていく。

初めに企画を提案したグループに掲示ボードを戻し、他のグループから出たアイデアについて共有し、グループ内で話し合い「一押し」企画を1つ決める。決めた企画についてA3用紙に一押し企画としてコラボレーション・場所・内容と具体的な内容を考えていく。

各グループで生まれた企画

一押し企画	コラボレーションしたい相手	場 所	内 容
毎日クリスマス	・トナカイ ・製菓メーカー等	・児童館	児童館が365日毎日クリスマス。
空を飛ぶ鳥人間	・円谷プロ・鳥研究所 ・臨床心理士・仙人等	・北海道 ・森の中 ・特撮スタジオ	仙人に話を聞きに行き、飛び方を学ぶ。鳥研究所、円谷プロの協力で羽を作る。臨床心理士の力で飛んだ気になる。
自分の線路をひいて走らせる	・車両を持っている人、場所 ・車両を直す人、場所 ・運送会社・電力会社 ・タモリ等	・自分のまち～森へ	眠っている廃車両を復元し、自分達の街を走らせる。司会はタモリ。車両にライブペイント。子ども達と一緒に生放送。
UFOがみたい!!	・野球選手 ・出版社 ・やおいじゅんいちさん ・おもちゃ屋 ・特殊メイクの人 ・洋裁ができる人 ・宇宙人 ・よしもと芸人	・名古屋ドーム	ナゴヤドーム中日VS巨人戦5回裏2アウトランナー1塁の場面でブランコがホームランを打ちドームが破れる。すると満天の星空。1つの星が大きく輝きだし月よりも大きくなって巨大なUFOが降りたつたと、やおいじゅんいちが解説し始める。巨大なUFOからまばゆい光が発せられ中からよしもと芸人、おもちゃ屋が扮する宇宙人が1列になってソロソロ登場。お笑いライブが行われ、帰る際には全宇宙人とハイタッチ、宇宙に関するおもちゃをもらって帰る。
プールで巨大プリン	・ハウス ・グリコ ・雪印	・北海道の流れるプール	材料を入れて流れるプールに混ぜてもらおう。夜な夜な冷やして朝起きたらプリン完成。水着を着てプリンプールへダイブ。食べる。
おかしの家を作ろう	・おかし屋 ・おかしメーカー ・ハウスメーカー	・北の方の児童館 ・雪まつり会場	雪まつりに出店。企業にも参加を募り参加者も家からおかしを持参。かき氷で作った家に色々なおかしをデコレーションしていく。最終日完成を祝い皆で食べる。
「ジャックと豆の木」の木に登りたい	・消防署 ・植木屋	・児童館敷地内	はしご車につたを巻いてもらいはいしご車の階段に登り金の卵を取りに行く。(家族の応援有)

■ 2 日目

1 企画書を書く時の内容説明

☆どんな内容を書いていくか

- ・目的(何でそれやるの)
- ・タイトル(何をやるか)
- ・対象
- ・日時
- ・効果、成果
- ・留意点、安全対策
- ・予算
- ・負担金



- ・スケジュール(進行内容)
- ・コラボ先と厚生員がどうかかわるか
役割分担
- ・伝えたいこと 呼びかけ
- ・あらかじめ伝えておきたいこと来てからわかるドキドキ感
- ・「オッ」と思わせる広告ってどんなこと
→キャッチコピー、目を引くコピー、目を引く写真、絵、レイアウト

2 前日の企画に対して

キャッチコピーを出す

キャッチコピーをどう考えていくか、どう作っていくかについて、アドバイザーの対談形式で紹介してもらう。

- ・キャッチコピーは、作れば作るほどヒラメキが降りてくるもの。
- ・だじゃれ、韻を踏む、子どものおしゃべりの言葉、大人が書いた文章。
- ・ゴロ、言葉の響きが面白いということ

にこだわる。

- ・表現する言葉によってひらがなで示すか、漢字で示すか、文字でみた印象を大切にしている。
- ・読みやすいようにと思い、すべてひらがなで示すと単なる文字の羅列になってしまう、読みにくくなってしまおうので注意。
- ・文字をイラストっぽくして文字の意味がわかるように示す。
- ・造語等。
例 どろてん風呂 何だろう?と思わせる。

3 板ダンボールにポスター作りをする。

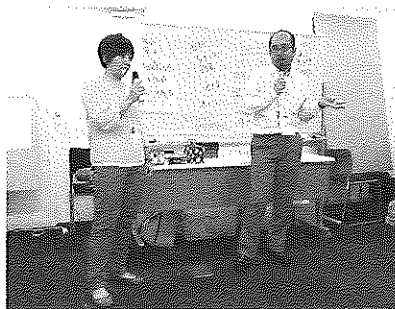
4 ポスターを通して、企画を発表し合う。

○アドバイザーから

～2日間の取り組みを振り返って～

「子どもたちがやりたいこと」として語り合った夢や企画に、それぞれ近付けていった欲しいと願っています。予算、環境、体制もさまざまかと思われませんが「主役は子どもたち」であり、「子どもたちが何を思っているか」という目線に近付くことが私たちのプロとしての力と考えています。

今回の経験から年に1本でも良いので、



普段はできないような素晴らしいことを生み出して欲しいと思っています。

ポスター作りは、企画のわかりやすさや、自分たちの中にストーンと落ちている、子ども目線に立っている内容になっているとスムーズに進んだと思います。逆に、企画が紆余曲折している、固まりきらずはつきりしないという状況だとポスター作りも難しくなってしまいます。こうした点から、企画は生き物だと考えているので、その生き



物に私たちがどう乗っていくかが企画力の面白みだと思っています。

今回『コラボ』をひとつのキーワードとして取り入れましたが、コラボというのは、相手に丸投げをしてしまうのではなく、自分たちがあくまで主体で、自分たちの持つ力を活かすことを言うと思います。そして、自分たちにはないものは他の人の力を借りながら「子どもたちのやりたいこと」を実現させて欲しいと思っています。



担当から

全国大会という大舞台でひとつの分科会を担当することになり、不安でいっぱいでした。企画を立てるのも試行錯誤を繰り返して当日を迎えました。

1日目は、企画を考えるにあたり、参加者の方がなかなか現実から跳び抜けられずに悩んでいる姿をみて、私たちがこの分科会の企画を立てる時にも、どうしたら発想が広がるのかという点で悩んだことを思い出しました。

そこで気がついた事は、発想を広げるには自分の殻を破ることが大切だという事です。参加者の方もアドバイザーの先生に助言や後押しを頂いたりすることで自分の殻を破り、だんだん夢のある企画が出来上がっていったのでその様子を見てとても感動しました。

2日目のポスター作りでは、キャッチコ

ピーを考えたり、のせる情報を選んだりする過程で、活発に意見が出され、各グループで企画への思いが一つになっていくという状況を感じました。実際の製作時間は45分という短い時間で材料も少なく、1グループ6人程でしたが自然と役割分担をし、キャッチコピーを取り入れ、わかりやすいポスターが完成しました。完成したポスターを並べて見た時はどのポスターも素晴らしく、圧巻でした。そして何より皆さんの一体感と晴れやかな表情を見て、嬉しく感じました。

大会の準備、当日の2日間を通して、本当に貴重な経験をさせていただきました。また、今回の分科会を無事終了されたのは、アドバイザーの先生方や参加者の皆さんの協力のお陰だと思いました。ありがとうございました。



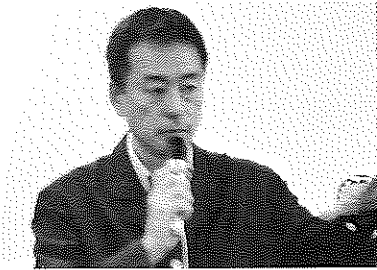
参加者アンケートから

- ・2日目は同じメンバーで話がスムーズで深められたと思います。子ども企画の反響にはちょっとびっくりでした。参考になれば嬉しい限りです。
- ・企画力について今、現場でもさまざまな場で役立つことを学べたと思います。
- ・担当の方の一生懸命さが伝わり感動しました。ありがとうございました。
- ・1つの夢に向かい意見を出し合い最後は45分間で畳1畳分のダンボールにポスターを作るということをしました。暗黙の役割分担がされ意見を出し合い素晴らしい作品が出来上がりました。これは同じ仕事をさせていてからこそ成し得たことだと思います。本当に感動しました。ありがとうございました。
- ・子どもの夢を企画化する試みは面白い発想なのですが、それを実現に向けて考えるプロセスはやはり難しいものがありました。
- ・和気あいあいと楽しく、色々な児童館の方とお話してたくさん刺激をもらいました。

分科会Ⅰ 10月27日 16:00～18:00
 分科会Ⅱ 10月28日 9:30～11:30
 ウィンクあいち 12階 1204

職員の意識

子どもにはわかる！！ 大人の本気



【コメンテーター】 佐野 真一さん

(公益財団法人児童育成協会 こどもの城 事業本部長)

【プロフィール】

学生時代より、地域子ども会ボランティア活動にのめりこみ、卒業後も子どもの遊びを支援する仕事につきたいと考えるようになる。杉並区の区立児童館の非常勤職員を1年務め、こどもの城に入社する。現在勤めて26年目、こどもの城開館以来勤務している。現在は、こどもの城子ども活動エリアの事業企画統括、調整が主な業務。野外活動事業、中高生世代事業、ボランティアコーディネーションが専門領域。

資格：児童健全育成指導士・日本キャンプ協会公認キャンプディレクター1級・日本レクリエーション協会公認レクリエーションコーディネーター1級

問題意識

本気で笑う、本気で話す、本気で叱る、本気で向き合う。職員として「本気」とは？組織の中での本気、個々として本気をどのように感じているのか？自分はどうしていききたいのか？児童館・児童クラブのあり方、それを支える厚生員としての資質を全国の指導員との話し合いを通じて現状を把握し、共有できるようにしていきたい。頭の中ではわかっているが上手く伝わらない、明確にならない、それらをどのようにして伝え、今後につなげていくかを打ち出していきたい。そのためには組織でも個人でも分析をし、見極めていく必要があると思いSWOT分析から入ることにしました。時間内で消化し、共有できるのかという思いもありましたが、言葉より文字にあらわし再認識することは必要だと感じました。

内容

■ 1日目

- ① 組織、個人からみても何が児童館・児童クラブにとって有利であるか、不足していることは何かをSWOT分析（現状分析）で出してみる。担当市の各児童館から事前にSWOT分析をしてもらい、各児童館の特色、不足していること、これからの問題点等をあげて説明する。
- ・ Strength (強み):
児童館・児童クラブの良い所・特色・有利であるもの
(目的達成に貢献する組織や個人の特質)
 - ・ Weakness (弱み):
児童館・児童クラブの悩み、困っていること、直していききたいこと、足りないもの。
(目的達成の障害となる組織や個人の特質)
 - ・ Opportunities (機会):
強みを活かすプラス材料。
(目的達成に貢献する地域や社会の特質)
 - ・ Threats (脅威):
児童館・児童クラブ以外にある施設、団体。

(目的達成に障害となる地域や社会の特質)
SとO→存分に使う。WとT→解決していく。

- ② グループ討議をしながら付箋に書き込み模造紙に貼っていき、そこから出た意見、自分の思い、疑問、夢、等を話し合いながら提議としてあげていき、これは外せないという問題点を次の手法に移していく。どのように攻略していくかを書き出すことにより明確にしていき、組織の中での問題点と個人としての問題点の共通点を付箋で色分けし、どちらでも書けるようにしておく。

- ③ ①のSWOT分析から各グループから出たテーマを元に攻略していくための戦略としてどうしていけば良いのかを話し合う。

- 戦略1・強みを活かす…
子どもとゆっくりにかかわれる児童館・児童クラブの特性、職員の専門性、特技。地

域との連携強化、異年齢児との交流の場、スタッフとの共有の場を提供する。

- 戦略2・弱みを克服する…
スタッフ不足をボランティアで補う、バザー開催等(費用不足を補う)個人の遊びから集団の遊びへつながりをもっと深める。職員間のズレはノート等の作成でコミュニケーションをはかる工夫をする。
- 戦略3・打ち負かす…
地域との連携、職員のレベルアップ。子どもに対する職員のサポートの強化、チーム力をあげる(目配り、気配りのスペシャリストをつくる)。親の理解と協力を得る。
- 戦略4・撤退する…
しないように中身重視。乳幼児の利用推進、広報、メディアの利用等、児童館に対する意識改革をしていく。子どもが興味を持てるようなプログラム作り、中高生がボランティアとして活動できる場所作り。
SWOT=戦略として頭の中で思っていた

ことを書き込み話すことによりさまざまな疑問、不安、自信を文章化し、さらにそれをどう攻略していくかを明確にしていく。以上の付箋から「これから自分が実現したい。それを実現するために必要な職員の資質とは？」を論点にすえ2日目につなげていく。

○1日目の現状分析から

- 地域との連携
- 職員の育成と活用・必要性
- 児童館・児童クラブの機能の発信及び改革

の意見が多くあり、これらを強化していくために必要なものは何か？職員の資質として子どもにかかわるプロとして掘りさげて考える。

■2日目

1日目の話し合いから出た分析の提議に入る。

手法としてワールドカフェ方式を使う。ワールドカフェ…(知識や知恵は)機能的な会議室の中から生まれるものではなくオープンに話し、自由にネットワークを築くことのできる「カフェ」のような空間でこそ作られると考えられる手法。話をしながら思いついたことを自由にテーブルの上の模造紙にメモしながら20分の話し合いを行い、メンバーを変えながら3回グループをかわっていく。そこで出たアイデア等を持ち寄り、より深くテーマに対する背景、前後関係を持つ。

1日目の分析をもとに「戦略を実行するために必要な職員の資質」を話し合う。各自が15~20分で行きたいテーブルを回って模造紙に書き込み、スタッフのあり方、姿勢、専門性、技術、地域との交流の有無、学校との関係等、1日目の話し合いから多く出された分析から意見交換をする。これを3回ほど繰り返して最後に自分のテーブルに戻り、聞いたこと、感じたことを話す。これからの児童館・児童クラブのあり方、自分の意識の持ち方を話し合い、今後の思いをコメントカードに書き込み発表する。

各テーブルから出たコメント (参加者からのこれからの思いとして)

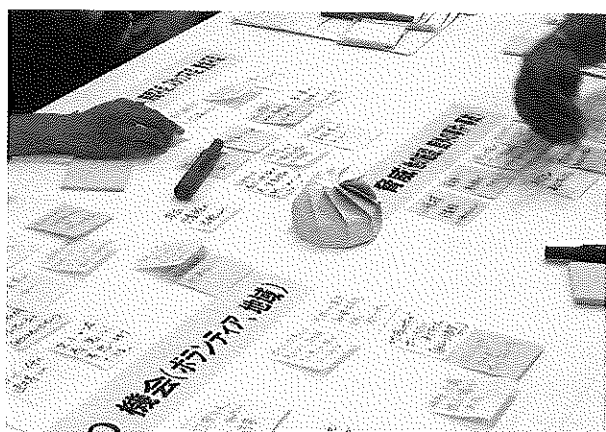
- 子どもと一緒に自分が楽しむこと。
- 笑顔で子どもにも職員にも接する。
- 短所を長所としてみられる柔軟な発想。
- 足りない所を補い合うような職場。
- 地域との連携、ボランティア、シルバー等外部との交流の大切さ。
- あきらめない、思いやる。
(職員にも子どもにも)
- チームワーク力の強化。
- 先生に会えて良かった!!と思われる職員になりたい。
- 得手不得手がある。無理をせずできない所足りない所を補い合い、足りないピースを埋めていく。
- 必要なのは生きていくこと。
- 両手をひろげて小学生を受け入れる。
等があげられました。

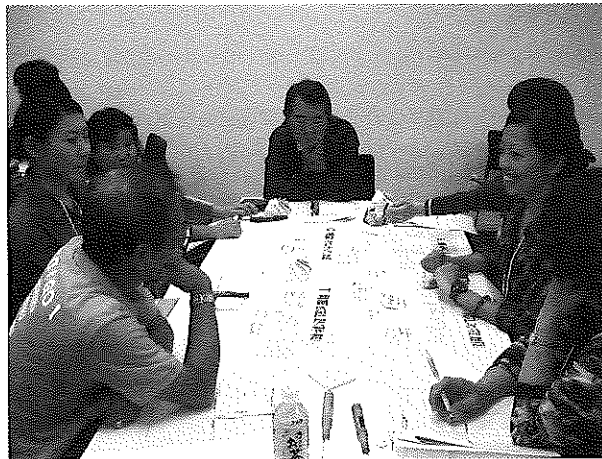
~コメンテーターから~

本気になる職員資質とは？

- 自己コントロールを統制する力がある。
- 常に自分を省りみてチェックをし、何が足りないのかを考え、成長していく。
- プロは止まらない。
- 自分を客観的にみる、自分を知る。
- 努力していく姿勢⇒本気でぶつかるといふ姿勢になる。
- プロの職員としてのあり方は技術だけでは子どもはついてこない。技術×人間性。どちらかが欠けると0になる。
- 自分の価値観、理論にこだわり自分を知る。そうすることで自分の問題点、課題がみえてくる！
- 大会の話し合いの中身すべてです!!

*大会の話し合いの内容を全て統括すると、「プロとしての本気の基本となること」のように思えるコメントをいただきました。





担当から

「SWOTって何?」「わからな〜い!むずかしい〜!どうやってするの?」皆さんから最初に出た言葉でした。自分ではわかっているつもりでも取り掛かる方にはわからない説明不足の所がありました。和やかなムードで進めるつもりがかた苦しい雰囲気にもなっていました。

長く指導員としてキャリアを積んでいる方、そしてこれから目指していく方、思いはさまざま、考えもさまざま。地域での児童館・児童クラブの存在、価値観の違い等があるなか「こうでなければいけない」のではなく「こうなっていければいいね」という話し合いとなり、それをこれからの児童館・児童クラブに活かしていただけたら嬉しく思います。全ては未来ある子どもたちのために、私たちがどうかかわっていくのか、児童館・児童クラブを一人を変えていくことはできませんが、同じ思いを持った者同士がそれを共有すれば実現も可能だと感じた大会でした。「プロ意識って何なの」と問わ

れたら「子どもたちに自分も育ててもらう」「子どもと共有する時間を楽しむ」「へこまない強い子にしてやるぞ!!」というのが私のプロ意識です!!楽しく本当にかげがえのない2日間でした。「本気で向き合い高めていく」「誰とでもいっぱい話を聞いて、自分のものにすることができた」と思います。「明日から本気でしていきたいこと!!」「本気で向き合っていく自分!!」を明確にできたと感じました。職員の意識は定義づけされるものではなく私たちがそれぞれに思うことなので、難しいテーマでした。相手に強要することでもない、個人の思いで子どもと接していくことが大切です。同じ思いの人がいた!こんな考え方もある!!と再確認した2日間でした。楽しかった〜!ありがとうございました。たくさんの温かいご意見、そしてわからなかったという厳しいご意見、すべて財産です!!

参加者アンケートから

- ・SWOTという内容で具体的に文章にして、より良くするために更にどのようにしていくと良いか深めていき、地域との交流・学校との連携等の大切さ、職員同士の気になる子への対応について話し合い、実践していけることを計画し実行、チェック、アクション(P,T,C,A)して経験を積み重ねていこうと思いました。また、遊びの内容・環境整備もその時の来館状況や内容に合わせて考えていき、熱意を持って子どもたちと接していきたい。
- ・子どもに対する気持ちとか職員間のチームワーク等、皆さん考えていること思っていることは同じだなと思った。そこから、どう進んでいくのかは自分で考えていくことだと思いました。

第5分科会

分科会Ⅰ 10月27日 16:00～18:00
分科会Ⅱ 10月28日 9:30～11:30
ウインクあいち 10階 1008

■ 中学生・思春期 ■

児童館に中高生が来てもいいじゃん！



【アドバイザー】清水 豊さん（小牧市適応指導教室アイトワ室長）

【プロフィール】

昭和51年～公立小中学校教諭・小牧市教育委員会指導主事・中学校の校長を経て平成24年3月に退職。その間、平成4年に文部省海外派遣団員としてドイツ・スイス・フランスで研修。また平成5年に日本自然保護協会自然観察指導員資格を取得。現在は小牧市適応教室アイトワの室長をされています。4年前からNPO法人子ども・宇宙・未来の会「小牧市宇宙の学校」の校長として、小学生に理科や自然観察を指導しており児童館にやってくるやんちゃな中学生に大人気の先生です。

問題意識

皆さんの児童館に中高生はやって来ますか？学校の先生たちは中高生が何をするために児童館へ行くのかと疑問に思っています。中高生が仲間と一緒に卓球をしたり、ドミノ倒しや将棋、ボランティア活動や音楽活動などを行い、満足気に帰っていく姿も少なくありません。反面、思春期真只中の子どもたちの反応に困ることも日常茶飯事だと思います。そんな中高生を受け入れるためにどんな児童館であるべきか、また色々な工夫を凝らした児童館があってもいいじゃないか等々。全国各地の児童館の状況を本気で、構えることなく語り合しましょう。「子どもにかかわるプロ」として、今ここから踏み出すことで、中高生にとって自分が出せる場所、居心地の良い児童館をみつけていくことができるのではと考えました。

内容

■ 1日目

アドバイザーから「思春期を迎えた子どもたちが、気軽に利用できる児童館のあり方について参加者皆さんの本音が出し合えることを願っています」との声掛けがあり、グループディスカッションに入りました。なぜこの分科会を選んだのか、どんな中高生がどうしてやって来るのか、中高生の何気ない会話にイジメを思わせることはないか等々、何でもありの本音トークを繰り広げました。

グループ発表

・Aグループ

児童館が中高生とかわりを持つためにはどうしたら良いか、事例を交えて話し合った。行政・地域・教育機関が統一の意識を持って、まとまりのある育て方・育ち方を促していく。

・Bグループ

1つの例で、幼少時からみてきた学校に

順応できていない子が思春期にいじめてしまった。来てくれたら受け入れようと職員は待っていた。ある日ナイフを持って来館し小学生に向かって俺は強いんだと威嚇したので、情報の共有・連携した対応を行うために学校へ連絡した。

また最近の女子は、発達が早く異性に対し必要以上に反応する。男性職員の皆さんに、その辺りの話をぜひ聞きたかった。

・Cグループ

居場所をイイ場所にしたい。児童館は自由来館だから来ていいし来なくてもいい。しかしいつかは卒業しないとイケない場所。中高生が大人になり保護者となって子ども連れで帰って来てくれればいい。その子どもが小学生になってとくるくる回っていく場所にしたい。

・Dグループ

来館することは良いがルールを守れない。「どうしてそれは禁止なんだろう。それを解決するためにはどういう方法がある

のかなあ」と話し掛け、子ども自身にルールを決めさせる。難しいが「居場所」と「ルール」とのバランスを考え良い児童館にしていきたい。

・Eグループ

中高生の現状として、児童館祭り・イベントの取り組み・バンド・ダンス練習が主な利用の仕方である。利用時間を延長している児童館もある。携帯電話の使い方やゲーム、言葉遣いなど色々問題もある。居場所ではなくたまり場になってはいけない。

・Fグループ

中高生を誘いボランティアなどで力になって欲しい。町で悪さをするより児童館に来てくれた方がよい。中学校の先生に理解がなく児童館は0歳～18歳まで利用できることを説明し理解してもらった。連携が必要だと思い今年度から時々学校へ行くようにしている。

アドバイザーより…

以前、児童館から中学生が帰って行かないと連絡があり駆けつけてみると、自分と人間関係ができていた子だったので10分ほど話したら帰って行った。おおもとは人間関係。焦らず作りあげ積みあげていき、その上で悪いことは諭していく。居場所ということでは、ボランティアを通しやりがいや充実感を持たせる。コミュニケーション力を高め、自分の思いを一方通行ではなく双方向で伝え合う。児童館に中高生が行っても良いということを学校・関係機関に情報発信して、お互いに行き合うことも必要。これは児童館と学校との双方向のコミュニケーションや連携になる。以上のことから、明日の話し合いのキーワードとして「人間関係を含めた双方のコミュニケーション」「やりがいからくる自己有用感」「関連機関との連携」が出された。最後に滋賀県のいじめ自殺事件から「もし、いじめている子やいじめられている子が来たら、職員はどのように接しますか」を提案された。

■ 2 日目

1日目のまとめでアドバイザーから提案された「人間関係を含めた双方のコミュニケーション」「やりがいからくる自己有用感」「関連機関との連携」に加え、参加者から話題提供された「いじめ」について熱く語り合いました。

グループ発表

・くまグループ

子どもたちは、クラブ活動に取り組むことやスタッフとのコミュニケーションを密にすること等目的を持ってやって来る。

職員は、自分から話し掛けたり話を聞いてあげることを心掛けたい。地域・学校との連携も大切な要素である。

・ぶどうグループ

中高生とのかかわりは、縦のつながりと横のつながりが大切である。学校との連携の取り組み方には、学校へ出向いて給食時の放送や朝礼の時間を使い行事をPRするなど、直接呼び掛ける方法をとることもある。社会福祉協議会とは、学生ボランティアの受け入れなどの取り組みを話し合い連携をとっている。

・ちゅうりっぷグループ

子どもを色眼鏡でみないでありのままをみてあげる。心と心のキャッチボールが大切。自転車盗難事件の体験から子どもを信じることの大切さを痛感した。信頼関係を築くことが大切。

・りんごグループ

言葉遣いが悪いことから問題が出てきている。対応方法として、職員は頭ごなしに叱らずコミュニケーションをとっていく。児童館ボランティアに参加させながら改善していく。ボランティア活動の様子を学校に伝える。大人扱いしてあげる。

・かえるグループ

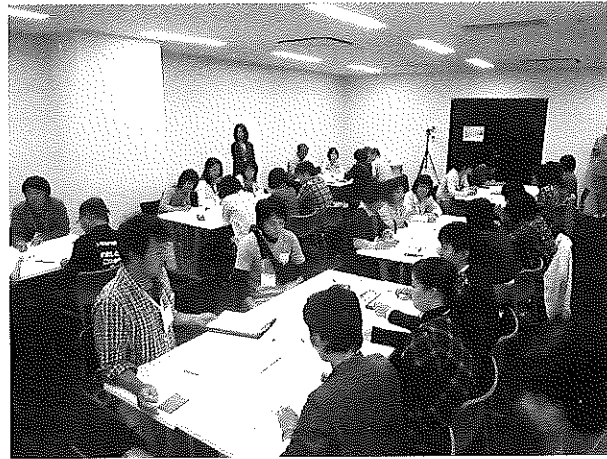
子どもたちに工作時の手伝い・ボランティア活動などをさせ、児童館に来て役立っていると感じてもらう。それにより自己有用感を持たせる。子ども一人一人を認めることによって信頼関係を築き、子どももまた相手を認める気持ちが生まれる。近隣の小中学校との意見交換会の中で、子どもの児童館での良い行動を伝える。連携と自己有用感につながっている。

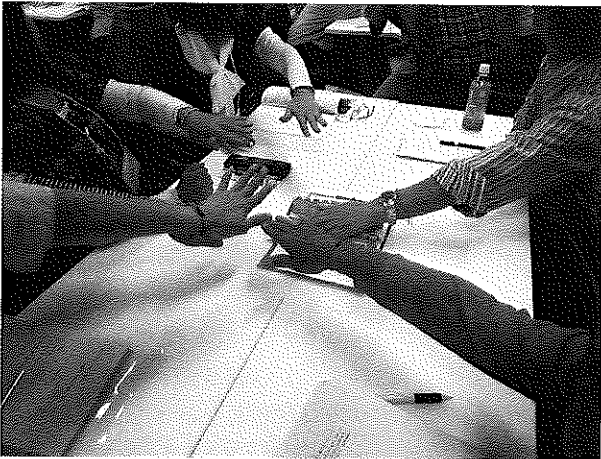
・うさぎグループ

居場所のない子をジュニアボランティアに誘い、一緒にさまざまな活動することにより自己有用感を味わえるようになった。地域で手にあまる子を児童館で受け入れ、子どもたちとコミュニケーションを密にとり安心感を与えていく。地域とつなげていければ良い。

アドバイザーより…

今、中高生を取り巻く環境と状況は変化している。親や大人の姿が子どもにみえにくい。感情がコントロールできずに衝動的な行動にはする姿が目立つ。社会適応が困難で義務感や責任感が喪失している。コミュニケーション力の欠如や方法が変化してきている。例えば、携帯依存で仲間はづれが簡単におき、そこからいじめがおきる。また、子どもが壁にぶつかった時に親がその壁を取りはらってしまうことで困難に立ち向かえない子が多い。信頼関係を積み重ねていくことにより連携はでき、コミュニケーションがあれば自己有用感が育つ。居場所として児童館は、多様な世代間関係で社会につなぐ場を作り出す。中高生に限られた世界の中で、井の中の蛙状態にとどまらないで成長するステップを仕掛けることも必要。自分への信頼感と他者への共感、仲間への連帯感を育む居場所を生活圏内に作り出すことが必要である。そして児童館の職員は、子どもたちの話を耳だけでなく目と心でよく聴くこと、多くのチャンネルを持ち、子どもたちに多様な出会いの体験、程良い関係の作り方を身に付けさせるなどコーディネートをしていくスキルも必要になっていくと思われる。





担当から

どんな大会の分科会でも、必ず取り上げられる中高生・思春期問題。中高生の姿ってどんな感じでしょうか。子どもたちはさまざまで、礼儀正しい子、気さくに話しかけてくれる子、ちょっとはにかむ子、大人を上から目線で見てくる子、乱暴な言動な子、その子その子で違います。職員もコミュニケーションを上手くとれれば良いのですが、ちょっと警戒してしまう場面や、受け入れを渋りがちになることもあります。児童館でそんなことがあってはいけないと思いつつも、中高生の気持ちをつかむのは難しいことで、悩みのひとつでもあります。分科会では参加者の方々が、自分の職場の様子を詳しく伝えようと、熱く語ってみるのが印象的でした。いみじくも大津の中学生いじめ自殺事件があり、それが覚めやまぬ間の大会でした。昨年までその中学校区の皇子ヶ丘児童館に勤務していた方から話を伺うことができました。時間的な制約からそれについて深まりある内容まで掘り下げることができませんでしたが、考えさせられる一面を得ることができました。グループ発表の内容からアドバイザーさん

が、3つのキーワード「双方向のコミュニケーション」「自己有用感」「連携」を提案してくださいました。それに対して参加者の皆さんは本当に真剣に話し合われました。その姿は本音に気が加わり本気の迫力を感じました。グループ内でのまとめ方や発表も素晴らしく、聞いている方々を納得させるものでした。

分科会の最後にアドバイザーさんがこんな話をしてくださいました。

「タカは里山の上空を巡回しながら山や峠に集まります。タカの群れは上昇気流の起きるポイントへ来ると巡回し、タカ柱を作って上空へ向かい、次の目的地に向け飛んでいく」そうです。

この話を聞いて、私たち児童厚生員も中高生たちの行く末を、同じ目的意識を持って見守っていこう！と勇気付けられ終了しました。参加者の皆様のご協力で、次に進むべき方向がみえてきたように思います。スタッフ一同も勉強になり、さらなる力をもらいました。これをそれぞれの現場に持ち帰って実践を重ねていきたいと思っております。ありがとうございました。

参加者アンケートから

- ・大変参考になりました。大きな目、小さな目、心に目を見開いて子どもたちとかわりたいたと思いました。
- ・非行や不登校との問題とものすごく関係が深く、今後の解決策や案についても真剣に取り組むことができました。
- ・思春期の子どもたちやさまざまな背景を抱えている子どもたちとどうかかわっていったらと常々頭を抱えていました。皆さんの意見を聞き、どこの児童館も同じ子どもの姿があり同じ問題を抱えており安心し、また、今のままの方向で良いという気持ちで少し気が楽になりました。本当の意味での居場所となるように頑張っていきたいと思いました。

第6分科会

分科会Ⅰ 10月27日 16:00～18:00
分科会Ⅱ 10月28日 9:30～11:30
ウインクあいち 10階 1001

コミュニケーション

極める！！～伝える力・聴く力～



【アドバイザー】原田 洋子さん (児童福祉司)

【プロフィール】

愛知県春日井市在住。平成7年から愛知県母子相談員となり、平成11年からは「子どもの虐待防止ネットワーク・あいち」でボランティア活動も行っている。その後、春日井市の児童虐待の相談専門員などを経て、現在は児童相談所の児童福祉司として活躍している。小中学生や教員（保育士などを含む）を対象に講演や研修を実施しており、その中では「子を生かす、社会を生かすコミュニケーション」「信頼はコミュニケーションから育つ」などのテーマで講演を行っている。また、親業訓練インストラクターや、子育てアドバイザーとして活躍中である。

問題意識

児童館・児童クラブに来る子どもたちの多くは、見栄を張ったり、大声でどなったり、友達や厚生員に当たったりして、自分の気持ちを素直に表現するのが苦手です。どうしてなのだろうと考えた時、こうした子どもたちはコミュニケーションの能力が低く人間関係にとっても敏感なのではないかと思いました。

自分の思いを伝えたいけど上手くいかない、相手の気持ちが良くわからない、求めていることがなかなかキャッチできない、子どもたちとかわかることの難しさを日々感じていると思います。コミュニケーションが上手く取れたら、自分の気持ちを大切に、相手の気持ちを思いやり尊重した関係を築くことができるのではないのでしょうか。その働き掛けについて意見を出し合い学んでいきましょう。

内容

■ 1日目

相手への働き掛けについて参加者とゲームをしながら意見を出し合い、共有することを学んでいく。

- ・コミュニケーションゲームの内容、意見交換

効果的な伝達法をしてみよう！

(伝える・聞く)

「送り手と受け手に分かれて絵を描いてみよう！」

1 回目は受け手からの質問はなし。

2 回目は受け手からの質問はありとして行う。

意見交換…正確に伝えるためにはどうしたら良いのか？

<参加者意見>

- ・細かい情報をしっかりと伝えることが重要である。
- ・質疑応答を繰り返し伝わっているか確認をする。

- ・思い込みのないように伝えたり聞いたりする。

- ・聞く人がどうイメージするか考えながら伝える。

メッセージを正確に伝えるための条件を体験を通して学んでいただけたと思います。正確に伝わるとコミュニケーションが上手くとれて情報が共有できるのではないのでしょうか。

共感してみよう！

(相手の気持ちに耳を傾ける)

「話し手と聴き手に分かれて体験談を話しましょう！」

1 回目は聴き手は無言、無表情で聴く。

2 回目は1回目と同じ内容で聴き手は顔いたり、共感する言葉を掛ける。

意見交換…1回目と2回目を比べ、どんな態度や言葉がよく理解されたと感じたか意見交換を行う。

<参加者意見>

- ・笑顔で相づちがあると共感してもらっていると感じて安心し親近感が持てる。

- ・無反応だと話しくいたため、言っていることに集中できない。

- ・リアクションがあるとより深い話ができる。

相手の言葉に耳を傾け共感することで、冷静に話ができると思います。耳への聴くで上手く気持ちが伝わるようにしていきましょう。

連想ゲームをしてみよう！

(相手を知らう)

「分科会で何を学べたと思っているか、連想してみましょう！」

この分科会で何を学びたいと思ったかを自己紹介で発表

意見交換…思ったことや感じたことをどうしたら連想できると思いますか？

<参加者意見>

- ・相手を知らうとする気持ちを持ち、固定



概念で物事や人を見てはいけない。

- ・言葉だけではなく目や表情によるコミュニケーションが必要であり、共感すること、質問することが大切である。
- ・伝えることは一方通行では駄目、思いやる努力が必要である。

自分から見た相手、相手から見た自分を認知し、どう見られているか考えながら行動することにより、コミュニケーションが上手くとれるようになると思います。

■ 2日目

児童館での1コマをロールプレイする。ロールプレイから、子どもと子ども、子どもと厚生員の問題点を見出しどう対応するか、解決に導くための働き掛けを各グループごとに話し合う。

ロールプレイの登場人物と内容

(登場人物)

- A君：自分の気持ちを相手が受け止めてくれないと手が出てしまう。
- B君：何か気に入らないことがあると「うざい」「きもい」を連発し話ができないし聞けない。
- C君・D君：近くで遊んでいる子
児童厚生員

(内容)

子どもたちが玩具を使い遊んでいる。B君がA君の前にあった玩具を何も言わずに持っていく。A君は使っていると主張、B君は使ってなかったと言い、返そうとしない。A君は立ち上がり、自分の水筒を手にとりB君を叩いた。厚生員が子どもたちの変化に気付き話を聞く。厚生員が水筒で叩いたA君に謝るよう促すが、納得できないA

君は謝ろうとしない。こぶしを握り締めたままだまっている。

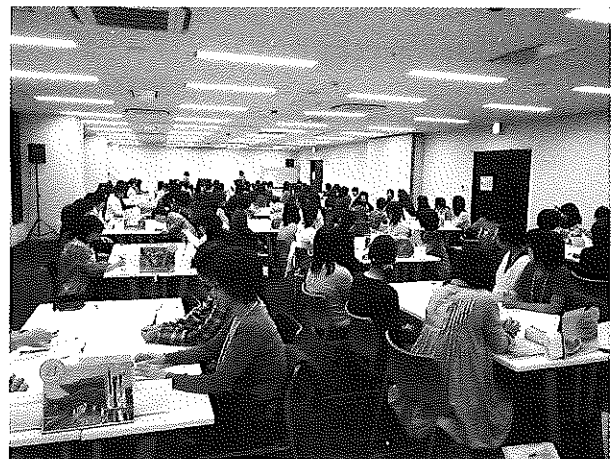
<参加者意見>

- ・お互いの正しい情報と事実関係をはっきりさせ、それぞれの気持ちをくみとった対応をする。
- ・おもちゃの取り合いも大事な成長のプロセスで、そこから学んでいく。
- ・厚生員は日頃の子どもの態度に先入観を持たず状況を把握し、その場面だけで判断しないように心掛ける。
- ・1人ずつじっくり話を聞き、お互いの誤解を解き、繰り返し言葉掛けの方法で伝えていく。
- ・厚生員が加わり、A君・B君両方に話をさせて解決させる。
- ・A君・B君に「言葉で伝えよう」と教え、本人が納得できるようにしていく。
- ・理解したうえで手を出したことを謝らせる。
- ・側にいた他の子どもたちも無関心ではなく、一緒に考えさせる。

アドバイザーより

人と人は、対立が起きて当たり前。対立が起きた時にどう解決するか、その力を持

つことが重要です。大人がコミュニケーション力を付け、その基本となるコミュニケーションを子どもたちに伝えていかなければなりません。大人がかかり手助けをしていくことで子どもの成長に大きく差ができます。具体的な言葉で共感して聴く。自己肯定感を大切に思いながら対応することで、自分を大切に思うようになり、大事な自分を守るために他者に対してこぞどいうときに「NO」と言えるようになるのです。子どもは感情表現の言葉を知らない。「うざい」「きもい」に代わる言葉を教えていきましょう。気持ちをくみとり「うざい」は「腹が立ったんだ」というように感情表現の言葉をつかい、その言葉の方が相手に上手く伝わることを教えていきます。自分の言葉で伝えられる、それを受け止められる人が必要です。大事に話を聞いてもらえたという経験が優しさや思いやりを育てていきます。子どもの話を聞くのに大切なことは、繰り返す、言いかえる、気持ちをくむこと。子どもが白いボールを投げてきたら白いボールで返す、言葉のキャッチボールをすることで、子どもの情緒が安定し、思考の発展につながります。





担当から

分科会が2日間となり、参加した人にどんなことを持ち帰ってもらいたいかと考えて内容を試行錯誤しました。現在、子どもと子ども、子どもと大人、大人同士の中で人間関係に敏感になり過ぎてうまくコミュニケーションがとれない。しかし、周りからは「孤独な人」とみられたくないから自分の気持ちを素直に表現できないことが多いのではないかと思います。そこで伝える力、聴く力を身に付け自分を大切に思えるようになるために、私たち厚生員はどうかかわっていくべきかを参加者の皆さんと考えていきたいと思いました。1日目は、コミュニケーションゲームを体験して、正確に伝えること、共有・共感すること、相手を知ろうとすることが大切であり、信頼関係を築くには重要であることを確認していただけたと思います。2日目は、1日目や日頃の体験を活かしてロールプレイによる

事例の検討をしていきました。各グループの意見交換は大変に活発で参加者の意欲がひしひしと伝わってきました。児童館・児童クラブの現場でコミュニケーションの力が必要だという思いが、出していただいた意見に沢山書かれていました。また、アドバイザーの原田先生より相手の心に届く言葉掛けやコミュニケーション力を具体的に聞くこともできました。私たち厚生員は子どもの気持ちをくみとり、尊重し合える人間関係を築いていけるよう働き掛けていくべきだと思います。この分科会で色々な人の意見を聞いて、自分なりの答えが見つかり、問題点を解決するための参考になれば嬉しいと思いました。また、あいち大会を終え「子どもにかかわるプロ」として大きく踏み出された皆さまにお会いできる日を楽しみにしております。ありがとうございます。

参加者アンケートから

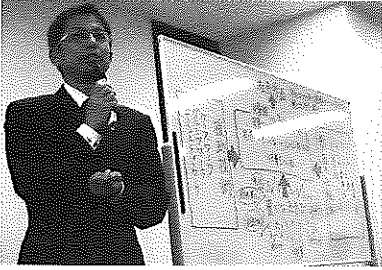
- ・具体的でとても理解しやすかった。実行に移していくのは難しいけれど勇気をいただきました。
- ・ゲームで体験して感じたり考えたりできたのでとても良かった。お互いの感覚がわかった。2日目の研修を職場で伝えたいです。
- ・初対面の方と心を開いてコミュニケーションをとることがいかに素晴らしいことかと実感した。遠方から来ていただいた先生に愛知の良さを知って貰えるようなネーミングや宣伝などユニークな工夫がされていて良かったと思いました。講師の原田先生のお話は現場の事例等、心に沁みるお話で改めて厚生員の大切な役割を感じました。
- ・話を聞くだけではなく、実体験でどういうものか理解できました。
- ・人を思いやり、気持ちをくむようにしていきたい。
- ・コミュニケーションゲームがあったことで、グループの方々と仲良くなることができ、活発な意見交換ができて良かったです。また、思い込みをしないで話を聞くことで相手を尊重できるようにこれからの仕事に活かしていきたいと思います。

第7分科会

分科会Ⅰ 10月27日 16:00~18:00
分科会Ⅱ 10月28日 9:30~11:30
ウインクあいち 12階 1203

子どもの参画

わくわく！ドキドキ！あんたが主役！楽しさをつくり出す子どもたち



【進行援助者】野澤 秀之さん

【プロフィール】

早稲田大学経済学部卒業。

児童館・放課後児童クラブに勤務の後、社団法人全国児童館連合会、厚生労働省等を経て現職に。

現在、財団法人児童健全育成推進財団研修部長。

問題意識

☆計画を実行するための子どもの思いを引き出すことは難しい…

☆話し合いの中で、個々それぞれの意見はどうしたらひとつの方向にまとまる？

☆子どもから良いアイデアが出てこないのはなぜ？

☆子どもが主体的になるようにしたいけど…どうしたらいい？

等々そんな思いを持っている人はいませんか？

子どもと向き合い活動を展開していく上で、どうしたら子どもが主人公となり、生き生きと参加することができるのか？

さまざまな思いを抱えている仲間とともに、問題解決に向けて考えてみましょう。

内容

■ 1日目

1. グループワーク

(1) 1日目のテーマ

イメージ(経験・情報・思い)を共有する
参画ってなあに？

○「子どもの参画」の実践者から

□事例提供

「子ども運営委員会の取り組み」

札幌市平岸高台小ミニ児童館

① 目的…

行事の企画運営にかかわるリーダー養成を目的としている毎月1回会議の実施をしています。各行事の司会や進行のお手伝いや日常の遊びの提案してもらい、子どもたちに実践してもらっています。今回初めて子どもたちからお祭りをやりたいという要望が出て、一から5周年記念のお祭りを作り出しました。

② 職員が大切にしていること

- ・子どもたちから意見を引き出す
- ・スタッフの姿を通して子どもたちが自ら意見を言い実行する
- ・互いの情報交換(職員同士・職員と子ども・子ども同士)
- ・子どもたちの意見が実現していくためのサポートを目立たないようにする

○グループ討議・意見交換・発表

9グループで話し合った内容

① 子どものレベル(資質・能力)に合った話し合いをする

- ・主体性が生まれ、コミュニケーション能力が向上し、協調性が養われる

② 「子どもがやりたい！」を実現する

- ・過程を大切にする
- ・大人はガマン!! 子どもの話し合いに口出ししない
- ・「子どもの参画」を学ぶことで職員の

意識改革ができる

- ・子どもの声に耳を傾けることで子どもの要求がみえてくる

③ 「子どもの参画」は日々日常生活の中にある

- ・子どもの日常会話の中に「今、何がやりたいか？」をみつけ出すヒントがある

・環境構成(室内装飾)を子どもの意見を取り入れて構成する

④ 子どもの意見を引き出す環境作り

- ・日頃から話しやすい雰囲気作りに心がける

・意見箱を設置し、どんな状況でも子どもが想いを言いやすいようにする

⑤ 「やる気」が達成感に結び付く

- ・「言える」「やりたいことができる」ことを体感させる
- ・子どもたちの会話の中にやりたいことのヒントがある

- ⑥ 縦のかかわりの中の「子どもの参画」
 - ・中高生の理事会があり、役割を持つことで責任感が生まれる
 - ・先輩へのあこがれで大きい子が見本となる
- ⑦ 子どもが決めたことは守られる
 - ・「子ども会議」を持ち、問題について話し合う
 - ・子どもが信頼される喜びを持つことが大事
- ⑧ 「子どもの参画」は植物の成長と同じ
 - ・「やりたい」の種まきをし、花を咲かせるまでの過程である
 - ・土…環境、添え木・水やり…職員
 - ・開花(満開)…やり遂げたことで自信ができる

○野澤先生からのコメント

各グループ良い話し合いができましたね。「参画とは何か」ということについて、話し合いの中で出てきたさまざまな言葉から「言葉の意味」「活動の姿」「しくみ」等のイメージが共有できたのではないのでしょうか。

■ 2 日目

- (2) 2日目のテーマ
気付きをカタチに
ー参画のプロになろうー

○「子どもの参画」のプロになるために！

- ① 必要な援助技術を学ぶ
- ② 仕組みを理解し使いこなす
「参画のプロ」として、陥りがちな問題に気を付けて、必要な援助技術・仕組みを駆使し、子どもの参画をテーマとしたプログラムや活動に取り組んでいける厚生員を目指してグループ討議

をしました。9つのグループでそれぞれの話し合った内容を発表しました。
※討議内容に合った「ひとことネーミング」を付けました。

○グループ討議・意見交換・発表

- ① プロの心得
 - ・子どもを認め、経験を積むことを繰り返し、ステップアップする
- ② エンジョイ4シーズンプロジェクト
 - ・季節の行事を楽しむことで、日頃から連続性を持って子どもの意見を吸いあげ、発想を活かす
- ③ でべそ問題・子ども主役法案
 - ・でべそ(=でしゃばる)な大人！
子どもが主役になるには、
 - ① 地道に
 - ② 地域をまきこみ
 - ③ 大人は縁の下の力持ちでいること
- ④ パキューム法
 - ・子どもの「やりたいなあ」という意見・気持ち、少数派の子ども意見も逃さず吸いあげることが大事
- ⑤ おにい△(参画) おねえ△(参画)
 - ・「子どもたちの楽しい気持ち」「子ども自身が作る」「大人のアドバイスや環境整備」の3つが上手く循環することが大切
- ⑥ あんたにまかせた法
 - ・「主役は子ども」大人は代弁者。子どもは頼られると意欲を持つ
 - ・「長〜い目でみよう」そうすれば子どもが育つだけでなく、職員も育てられていく
- ⑦ 子どもの心(意欲)に火をつける
チャッカマン法
 - ・子どもを認め、やる気を引き出すような言葉掛けをする

・やり遂げた時にものすごく盛りあげる(ほめる)！これで子どもの心に火がつく！

⑧ 大人がバラバラだけ問題

- ・大人同士の意見が統一されていないことで、子どもたちへ情報が伝わりづらく、コミュニケーションも上手くとれない
- ・お互い(子ども同士・大人同士・大人と子ども)に情報交換をしっかりと行い、連携する。

⑨ 結果<過程 口も出したい、見守り隊

- ・子ども一人一人の個性を見極め、子どもの気持ちに寄り添い、適切な声掛けをしていこう！

○野澤先生からのコメント

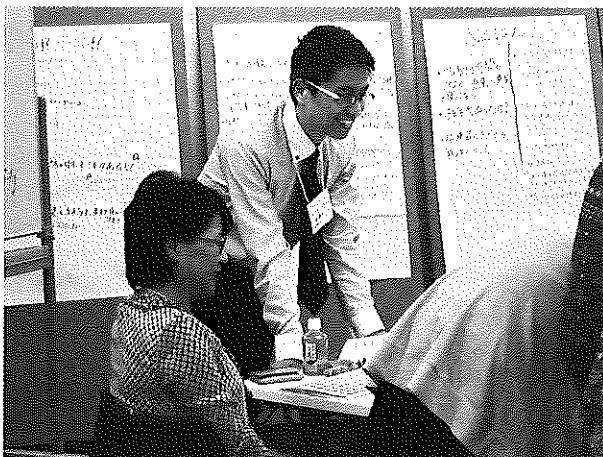
(子どもの参画を
より良いものにするために)

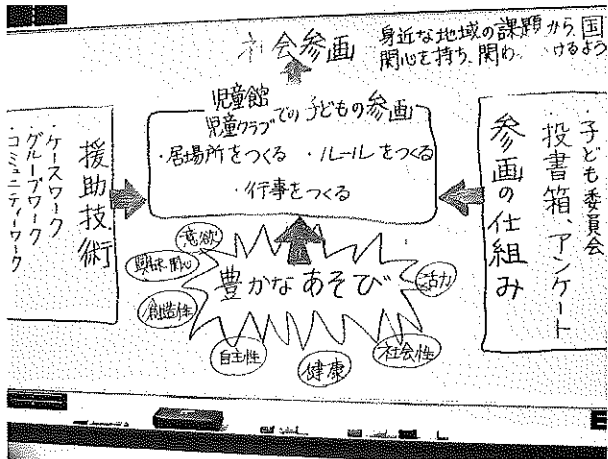
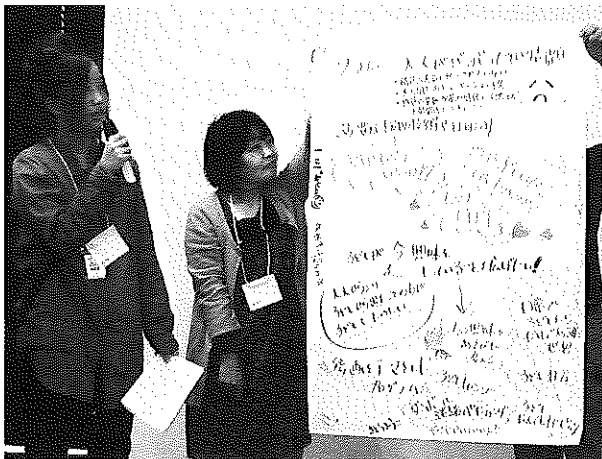
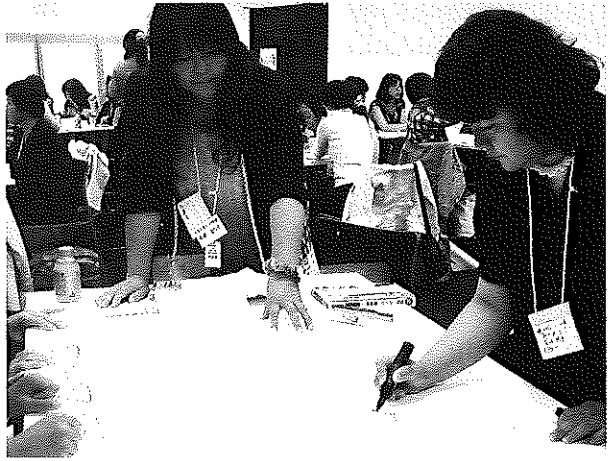
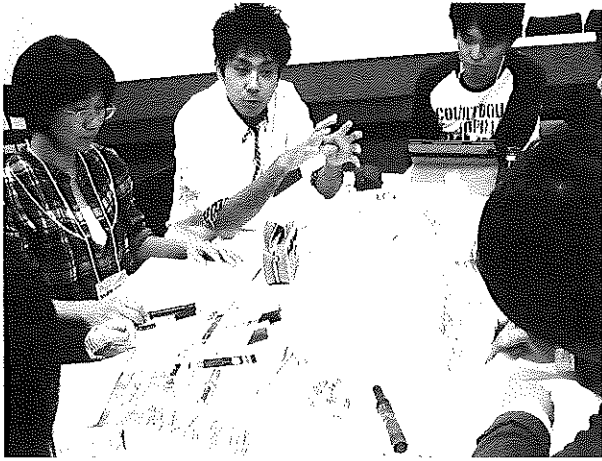
「子どもの参画実践のイメージ」

- ① 基本(ベース)…豊かな遊び
- ② 参画の仕組み(しかけ)…子ども会議・意見を募る投書箱等
- ③ 援助技術…子どもとのかかわり方
αエッセンス…(参画の心得、地域とのかかわり、分科会での体験)

☆子どもの参画=①+②+③+α

「子どもの参画」をすることで何が育っていくのでしょうか。子どもの自主性が育ち主体性が育てば、社会に出て主体的にかかわる力が持てる人になります。そのために一人一人の子どもとしっかりかかわり、子どもの声に耳を傾け、職員同士がきっちりとチームワークを組むことが大切です。そうすれば、子どもの参画の実践は難しいことではないと思います。今後子どもの参画をさらに充実させていき、この健全育成の灯が消えないように頑張っていきたいと思います。





担当から

2日間の分科会を終えて…

子どもが「楽しい!」「こうしたい!」という気持ちを持って計画の段階からかわかり、想いを実現させていくためには何が大切なのか?どんな援助が必要なのか?グループワークを通して、9グループからさまざまな意見が出てきました。日頃の実践を出し合い、「子どもの参画」についての話し合いを進めていく中で、改めて「子どもの参画」が子どもの成長にとっていかに重要であるかが理解できました。

子どもが、自ら考え行動できる子どもになるために、「子どもの成長を見守る大人が問われている」という言葉が心に響き、「こんな子どもになって欲しい」という要求を子どもにばかりするのではいけないのだということがわかり、自分を振り返る良い機会となりました。

お互いの現場での情報、「子どもの参画」についての思い、積み上げてきた経験を伝え合う中で、今抱えている悩みや問題点が出てきました。問題解決に向けての糸口を探る中、「こんなことはどうですか?」と自分が経験したことを話したり、アイデアを出し合ったりし、大いに盛り上がりました。

2日間の話し合いは、全国津々浦々からの仲間と Hot な交流ができ、悩んでいるのは自分たちだけではないことがわかり、これからの仕事のパワーをもらうことができました。

大人の目線で子どもと接していくことよりも、子どもと同じように楽しみ、子どもを信じて待つこと・任せることが大切だと再確認でき、職場に帰り早速実践してみようと思いました。

参加者アンケートから

- ・子どもの参画について改めて気付かされる部分もあり、勉強になりました。
- ・他の児童クラブや児童館の色々な意見が聞け、また考えや思っていることが同じであることがわかり勉強になりました。
- ・他の児童館の取り組みも色々を知ることができ、話し合いの中で思いもよらない方法が見つかったりして有意義な時間でした。
- ・子どもの「楽しい!」という思いを実現させてあげるためにも、子どもの声に耳を傾けていきたいです。
- ・自分の児童館で困っている問題について、色々な話し合いを通じて気付かきや感じるものがあり良かったです。

第8分科会

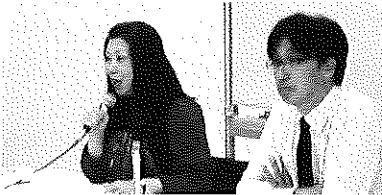
分科会Ⅰ 10月27日 16:00～18:00

分科会Ⅱ 10月28日 9:30～11:30

ウインクあいち 10階 1003

地域ネットワーク

地域にとって「なくてはならない」児童館をめざして



【事例提供者】 上杉 直美さん（半田市青山児童センター花・はな副館長）

【プロフィール】 昭和62年に子育て支援グループ「はとぼっぼの会」を立ち上げ、活動26年目。半田市成岩第3区コミュニティ推進協議会役員を歴任。社会教育委員、民生児童委員、主任児童委員。平成24年4月から現職。

石島 貴伸さん（半田市子育て支援部子育て支援課）



【事例提供者】 氏家 幾子さん（塩竈市藤倉児童館長）

【プロフィール】 昭和52年から塩竈市保育所勤務。生涯学習センター勤務を経て平成21年7月から藤倉児童館勤務。平成23年6月から現職。



【事例提供者&アドバイザー】 坂元 悦子さん（宝塚市安倉児童館長）

【プロフィール】 小学校教諭を退職後、子育て期間と10年間のYMCA体育講師を経て、平成14年から19年大型児童センターで中高生支援。平成19年から現職。関西学院聖和短期大学部非常勤講師(地域福祉論)。平成24年児童健全育成指導士取得。

問題意識

もしも児童館がなくなったら…と考えたことがありますか？誰が困り、地域はどう変わるのでしょうか？児童館は地域の中に存在し、児童の健全育成とともに地域の子育て環境を良くする働きを担い、そうありたいと願っています。その機能をより良く果たしたいという思いから、地域にとって「なくてはならない」児童館であるためにはどうしたら良いのかを全国の皆さんと一緒に考え、今を振り返り、事例等から学び、そして明日からの一歩を踏み出すきっかけをみつけましょう。

内容

■ 1日目

分科会は、6～7人で構成された11グループが、狭い部屋でひしめき合いながら行われました。

1日目：テーマ

「もしも児童館がなくなったら」

1. グループワーク

「もしも児童館がなくなったら」

もしも児童館がなくなったら、地域の誰がどのように困るだろう？あるいは困らないだろう？と、「児童館がなくなったら…」をイメージアップするためのグループワークを行いました。「子どもたち」と「親」は、絶対困ってくれると確信し、それ以外の「地域」の人や機関を想定し、どんどん付箋に書いて貼りました。ほんの一部を紹介します。

誰が	困る理由
ボランティア・母親クラブ	・活動場所がなくなる(少なくなる)
老人会	・子どもとの接点なくなる。 ・世代間交流ができなくなる。 ・生きがいであった。
自治会・町内会・子供会など	・地域コミュニティの弱体化
保育園・子育て支援センター ・子ども家庭支援センター など	・母親の仲間作りの弱体化、子育てに必要な(発達支援・虐待予防等)継続的な見守り、連携の弱体化。
学校	・学校と家庭以外の子どもの様子がわからなくなる。気になる子どもについての情報交換ができなくなる。下校後の緊急避難先がなくなる。
商店街	・活気がなくなる
行政	・防災上の不安

たくさんの人や機関と児童館がつながっていて、児童館がさまざまな役割を果たしていることが改めて実感できました。また、自分の児童館からは想像のできなかったつながりを持っている児童館があることや、地域の立場からみたらこういう役割を果たしているんだということに気付かされました。

なお、「困らない」とされたほとんどは、「これまでにかかわりがなかったから」「ほかに代わりの場所があるから」というものでした。

2. 事例を聞く I

① 半田市青山児童センター花・はな

「地域の力を活かすとは？児童センターはどう使われると『成功』なのか？」

昨年、児童クラブが児童館に併設して実施されようとしたのを契機に、やはり児童館固有の働きがこの地域では必要と考え、長年子育て支援活動をしてきた「地区」で運営することを提案し、市と調整した。市の理解を得て、今年度から地区が運営を委託される形となった。もともとあった地区の方々とのつながりが、児童館を中心にますます深められ、地域の方々が常に児童館の子どもたちのために、と考えて活動の応援をしてくださっている。地域の子どもたちは地域で育てていくんだという気持ちで楽しく活動をしている。

(市職員から)市としては、地域の力で児童館を盛り上げるんだという地区の強い気持ちを感じ、実現のための方策を考えた。どこが運営するのかということ以前に、子どもたちにとって児童館が魅力ある場所になり、地域で子どもたちを守り育てていく気持ちで運営につながることが大切だと思う。

② 塩竈市藤倉児童館

「地域の方々に助けられ」

東日本大震災で多くの児童館が倒壊したり津波に流されたりした。藤倉児童館も使用できなくなった。しばらくして児童館に片づけに行くと、子どもたちから「先生、どこ行ってたの？」と言われた。その日から晴れた日は、青空の下で遊び、雨天時は公用車の中で子どもたちの話を聞き気持ちに寄り添った。

藤倉児童館は再建設される運びとなったが、相前後して地域の方々から「児童クラブがないと困る」「孫と遊べる所がなくなった」「児童館から子どもたちの声が聞こえないと寂しい」などの声が聞こえ始め、署名も集めてくださった。

震災後、悲しみや不安を抱えた子どもたちがたくさんおり、建物が無いものの何とかしたい一心で、出前児童館を少しずつできる所から始めた。公用車で荷物を積んであちこちに出向き、小学生・幼児親子など地域の子どもたちや保護者のために続けていくうちに、地域の方々が場所の提供や、お茶を準備してくださる等どんどん協力してくださるようになった。震災をきっかけに地域とのかかわりは深まったように思う。地域の方に支えられながら一緒に子どもを守り育てている実感がある。

■ 2日目

2日目：テーマ

「私の児童館と地域のつながり」

1. 事例を聞く II

③ 宝塚市安倉児童館

「地域の中での育ちあい～地域とともに『ここで子育てしたい』『ずっと住み続けたい』と思う地域をめざして」

着任した時、安倉児童館は地域の方々との間に隔たりがあり、地域から孤立している状態だった。まずはこの状態から脱するために、地域のために何ができるかと考え、子どもたちと児童館の周りを掃除することから始めた。きれいになって嫌な人はいない。また身体障害者施設との複合施設だったので、この環境を利用して少しずつ障害者の方々子どもたちとのつながりも作っていった。

同時に、安倉地域の子どもにかかわる機関に、児童館から声を掛けた。話してみるとそれぞれ子どものことを思っていたものの連携が取れていなかったことがわかり、定期的に地域の子どものことを話し合う仕組みを作った。

こうしてできることを少しずつ探して実践し、今では地域の中に児童館は存在し、また地域の方々子どもたちを育てていく環境になった。

2. グループディスカッション

「私の児童館と地域のつながり」

3つの事例をもとに、改めて自分の児童館と地域のつながりを考え直し、地域とのつながりをより強く深くするために明日から自分がどのように動くのか話し合いました。

話し合いは次の3つのことを考えながら進めました。

① 自分の児童館と地域のつながりの実態

を振り返る

② 現在の「つながり」は、どのような経過でできてきたのか？

③ 「つながり」が十分でないなら、その要因は？

どのグループも和気あいあい、熱気あふれる話し合いがなされました。

話し合いの後、ディスカッションの中身を、みんなでシェアしました。一部ですがご紹介します。

・「つながっている」ってどういうことなんだろう？つながっていてもうわべだけのものもある。会議など事務的なつながりではなくて、有機的なつながりが大事なのだ。

・つながるには待ってはいけません。こちらから「笑顔」でアプローチをすることが大事。地域の行事に参加する、思い切って出ていく。「待ち」の児童館から「街」の児童館に。

・今ある既存のつながりを超えた新しい地域資源の発掘が必要。高齢者も若い人も、幅広い層を巻き込んでいくことが必要。地域のキーマンを見つけることが大事。

・「私たちが」ではなく「地域が」必要とする結びつきを作らなければ。地域の運営委員会などに参加すると地域の課題がみえてくる。地域の人や機関は、昔からのつながりで成り立っている。頭をさげて教えてもらう姿勢が大事。児童館の職員は異動するが、地域は変わらない。職員が異動しても継続できる枠組みを作ることが必要。

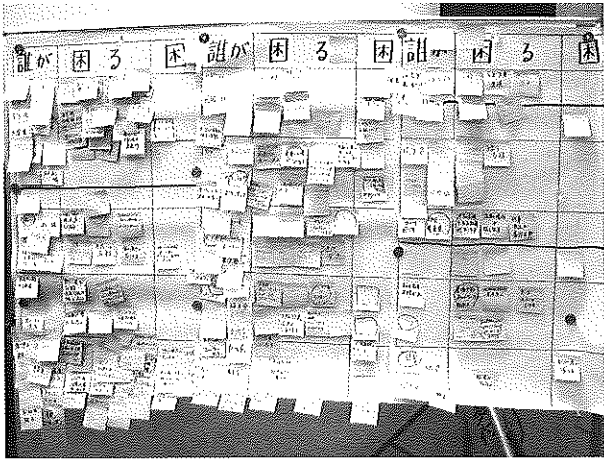
・学校とのつながりにくさを感じていたが、移動児童館に学校の体育館を利用した。児童館の姿をみせることも必要。

3. アドバイザーから

まずは始めよう。どのような取り組みをしていくとしても、とにかく真摯に向き合うこと、そうすれば周りの方は認めてくれる、助けてくれる。「掃除」は今すぐできますよ。

4. 「明日からの一歩」カード

最後に、この分科会で聞き話し合ったことをもとに「明日から自分がすること」を言葉にしてカードに書き込み、グループ内で見せ合いました。



担当から

- ・参加者の皆さんの熱心さに助けられ分科会が進められたことに本当に感謝しています。ありがとうございました。
- ・3つの事例は、それぞれやはり、生々しい息づかいのようなものを感じ迫力がありました。参加者の方も真剣で、時に涙を浮かべながら聞いている方もありました。
- ・「もしも児童館がなくなったら…」というショッキングな問い掛けから始めましたが、児童館の存在意義や役割の広さ、重みを考えることとなり、直接子どもたちや親御さんたちの成長を支えるだけでなく、地域の子育て支援推進の一翼を担う役割を再認識しました。
- ・『地域が』必要とする連携という言葉が身に染みました。私たちが地域に教えてもらう、地域を歩き、地域の人と話し、地域を知る姿勢を持ちたいと思います。
- ・行政と現場が一体となって取り組んでい

く大切さが改めてわかりました。行政も大きいですが地域のひとつ、現場の私たちの声の届かないもどかしさや自分たちの弱さを感じつつ、でも一番わかって欲しい所です。ひるまず、めげず、しぶとく働きかけたいと思いました。

- ・地域とのつながりは待っていても始まらない。今できることをひとつずつ、ゆっくりと積み重ねることが大切なのだと再確認しました。が、容易ではないことも改めて感じました。
- ・震災被害を受けられた東北のこと、忘れてはいけない、応援し続けると心を新たにしました。
- ・「つながる」ってどういうこと？との参加者の声。またスタートに戻ります、こうして考え続け、少しずつ進化していきたいと思います。

参加者アンケートから

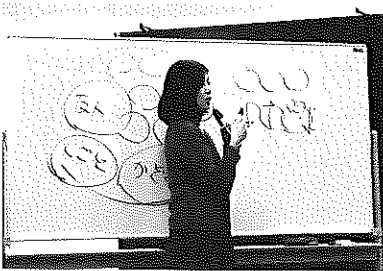
- ・地域福祉施設としての役割が共有されたのではと感じました。
- ・学びの場、情報交換の場となりました。ありがとうございました。
- ・今後の児童館のあり方、児童とのかかわり方をじっくり考える機会となりとても素晴らしいプログラムだったと思います。
- ・氏家さんの話は辛い出来事でしたが児童館の役割、意義を再確認できました。七夕のイベントは雨だったということでしたが、児童館の再開を願った人々の嬉し涙だったのでしょ。児童館は「地域の橋渡し役」、立ち止まらず子どもたちの事を考え、動かないといけません。完成ゴールはないので皆さん、頑張りましょう。

第9分科会

分科会Ⅰ 10月27日 16:00～18:00
分科会Ⅱ 10月28日 9:30～11:30
ウインクあいち 10階 1002

こころの理解

子どものこころ みること！気づくこと！寄り添うこと！



【アドバイザー】井上 香奈子さん（臨床心理士）

【プロフィール】

上智大学文学部卒業後、愛知教育大学大学院を修了。大学院在学中、愛知県の心理職員として採用された。児童相談所の児童心理司や保健所の精神保健福祉相談員、警察の少年相談員などに従事し、その間、発達障害、虐待などのカウンセリングや子どもや家族からの相談などに携わった。

現在は、愛知県三河児童・障害者相談センターの児童心理司として活躍しているほか、愛知県警からの委託による被害少年カウンセリングアドバイザーとしてのボランティア活動にも積極的に携わっている。

問題意識

十人十色、一人一人感じ方は違いますが、わかっていても思いや感じ方は違うということをついつい忘れてしまい、子どもを叱ったり、怒ったり、言うことをきかせようとしてしまいます。その結果、言うことをきかない子どもに腹を立てたり、「どうして私の言うことをきいてくれないのだろう」と落ち込んだりします。児童にかかわる専門家として「子どもの目線に立つ」ということをどうしたら意識付けていけるでしょうか。また、それぞれのこころにどう寄り添えば良いかを考えましょう。

この頃、「どうせぼくなんか…」と自己肯定感の低い子が増えていてとても気になります。他人の良い評価なくして自分を肯定することはできないのではないのでしょうか？どうしたら、自己肯定感を高めることができるのでしょうか。

内容

■ 1日目

人それぞれ思いや感じ方は違うということを体験により理解してもらい、絵本『おこだでませんように』をきっかけに子どものこころにどのように寄り添えば良いかを話し合う。

1 共感の術を理解する

- ・担当者が共感ではない会話と共感的な対応をする会話の違いを見本として演じる。相手の気持ちを理解できていても返事が

不適切だと「ちっともわかってくれない」と感じるし、言葉が適切であれば、相手が「ああ、私の気持ちをわかってくれたんだ。」とを感じる。共感してあげるということは、相手の話や気持ちに合った適切な言葉を返してあげるということをわかっていただけたと思いました。

子どものこころに寄り添うにはどんな言葉掛けをし、どのように接すると良いのでしょうか。

2 グループディスカッション (絵本を使って考える)

絵本の一場面を抜粋し、少ない情報の中で色々想像力を膨らませ、具体的に話し合いました。

<参加者の意見の一部>

- ・子どもが具体的にやってくれたことをまずは認める。
- ・子どもを頭ごなしに叱るのではなく、こうして欲しかったなあという思いを

1 (私)メッセージとして伝える。

- ・相手の気持ちを代弁して共感する。大人の目線で考えず、いつでも子どもの尺度で考え、子どもの目線に立ち、子どものこころに寄り添っていくことが大切だと思いました。

3 スローガンを考える

「子どもの目線に立つ」ということを絶えず意識付けていくためにスローガンを考えてもらいました。

考えたスローガンを持ち帰り用と掲示用のカード(2種類)に記入してもらおう。

<自分が子どもに寄り添うための一押し言葉の一部>

- ・こころのキャッチボール
まずは子どもの気持ちをキャッチする
- ・まず聞く
目で…耳で…心で…
- ・自分の中の大人を捨てる
折に触れ、自分で考えたスローガンを見



て、その時の気持ちを立ち返ってもらいた
いと思います。

■ 2日目

自己肯定力を高めるため、人の良いと
ころに目を向け、良いところを見るトレー
ニングをし、子どもに寄り添えるかわり方
について考える。

1 ネガポジエクササイズ

「認めてあげれば子どもは自分が好きに
なる」ドロシー・ロー・ノルトの言葉にある
ように短所を長所だと捉えることができる
ようになれば子どもを褒めてあげる頻度が
増す。そのために短所を長所として捉える
トレーニングをしました。

■ 短所を長所に ■

○落ち着きがない⇒活発、活動的、興味が
豊富、色々なことに興味が持てる

○怒りっぽい⇒感情が豊か、すぐに行動
に移せる、素直

見方、考え方で人は前向きになれるとい
うことを感じてもらえたと思います。

2 アドバイザーより

「人から認められると自己肯定感が高め
られる」というテーマで話をしていただき
ました。

◎自己肯定感とは？

- ・自分は大切な存在と思えること。
- ・下手だけど好き、やってみたら楽しい、
そう思えることが大切。子どもの頭の中
にそういった細かな小さな良い自分
イメージがたくさん集まっている子ば
ど、自己肯定感が高い。

◎自己肯定感を高めるためのコツ、ほめる 時のコツ

- ①個人間差ではなく、個人内差で評価す
る。
 - ・人との比較ではなく自分の中で比較し
ましょう！
 - ・個人間差…人と比較してほめるのはダ
メ。「○人の内、○位だったよ。」
 - ・個人内差…本人の過去と今を比べてほ
める。「去年は2重跳びができなかった
けど今はできるよね。」「算数は苦手だ
けど、サッカーは得意だね。」
- ②結果よりプロセスをほめる。
 - ・経過をこまめにメモしておく。
 - ・以前話したことを話題にあげると良い。
前の自分を覚えていてくれることが嬉
しい。
- ③「私の気持ち」を足してほめる。

・自分の気持ちの気づきをできるだけた
くさんの言葉にして返す。

(言葉の足し算)

◎トラブルが起きた時、身に付けて欲しい こと、学んで欲しいこと

- ①素直な感情表現ができるようにする。
 - ・欲求に素直なのではなく、気持ちの表
現が素直にできる。
- ②他の人の気持ちが理解できることを学
んで欲しい。
 - ・子どもの要求を知る。
 - ・子どもの気持ちを想像し、代弁して、
「○○なんだよね。」と気持ちの確認ま
でしてみる。
 - ・大人が自分の気持ちを理解してくれよ
うとしていることを子どもが感じるこ
とが大事。
 - ・自分の気持ちが理解できると人の気持
ちが理解できるようになる。

◎トラブルの時に大切なこと

- 現実的な解決策を提示する。
- ・ネガティブなものをポジティブにみる
ことは心の整理として大切である。
 - ・だめなことはダメ！とはっきり伝える。
 - ・自分も他人も傷つけることは許さない。
 - ・最低限守らなければならぬことはそ
の場その場で短く伝える。
 - ・なかなか理解できなかつたり、同じこ
とを繰り返したりする時は、1対1で
話してみる。

◎私たちにできること

- ①いつもここにいるよ。
 - ・児童館に行くときあの人がいると子ども
に思ってもらおう。
 - ・いつも子どものところの中にいて、ピ
ンチの時に思い出してくれる人であり
たい。
- ②子どもを信頼する。
 - ・子どもを信頼することは難しいが、こ
の子には「底力がある」と信じる。
 - ・長い目でみれば何とかなると思うこと
が大事。
 - ・条件付きで信頼すると失敗する。
(例)「約束を守れたから、この子はもう
大丈夫。」
- ③その子にやって欲しいことは、自分が
その子にやってみる。
(例)お母さんに優しくなって欲しいと
思ったら、私がお母さんに優
しくしてあげる。

3 グループディスカッション

アドバイザーの話や事例(愛知県児童総
合センターの「あなたのいいところカード」

「よい子の石」等)をもとに、具体的にどんな
方法があるのかを話し合いました。

◎児童館や児童クラブで自己肯定感を高め るには

■ 発表の一部 ■

<ありがとうの木>

- ・子どもも保護者も目にすることができ
るので、玄関先に褒める木を設置する。
- ・あえて誰のことなのかは書かず、無記
名でメッセージを書いて貼る。
- ・だれに宛てたメッセージでも良い。読
んだ人が幸せな気持ちになる。

<まずは職員が子どもをほめる>

- ・子どもの良い所だけを話すミーティ
ングを設ける。(情報の共有)
- ・褒めエピソードを書いて、ポストに入
れる。

すぐ実践できる方法がたくさんみつかり
ました。

◎個々の自己肯定感を高めるには

「人に言われてニコッとされる言葉」を考
えてカードにした。

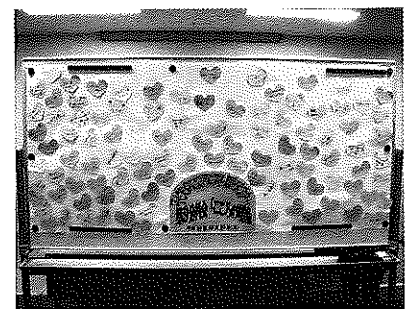
■ カードに書かれた言葉の一部 ■

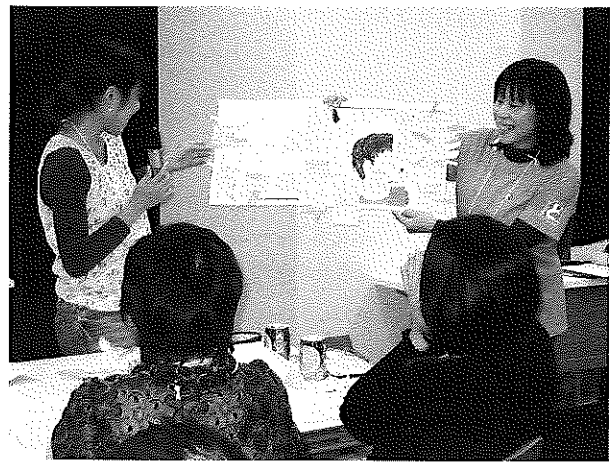
- ・そのままの君が一番良いよ
- ・君にしかできないことがきっとあるよ

4 まとめ (アドバイザーより)

皆さんのアイデアを聞いていてほめる
ことはとても難しいと感じた。それでも良
い所をちょっと見つけてあげて、楽しいこ
ともちょっと見つけてあげると良い。

今日の皆さんをみて、自分の意見を率直
に表現できていると思った。そういう人達
が子どもと接してくれていることをとても
心強く感じた。これからも率直に自分の気
持を鋭意に感じたり表現したりしていっ
てほしい。そうしてあげることにより、子
どもが自分の感情を表現できるようになる
と思う。





担当から

こころの理解というテーマで分科会を担当することになり、「子どものこころの理解」ってなんだろうと考えました。まず思ったことは「子どもにしろ、大人にしろ、一人一人感じ方って違う。」ということでした。どんな方法なら、参加者に理解してもらえるかを考えました。そこで、絵本『おこだでませんように』を使って子どもの思いに気付き、どう寄り添ったら良いかを考えるグループディスカッションを取り入れました。それにより寄り添うことは共感してあげることだということや寄り添うための一押しという言葉を考えてもらうことで「子どもの目線に立つ」ということを常に頭に置いて子どもに接することの大切さを参加者に感じ取っていただけたと思います。井上香奈子先生に「自己肯定感を高める」をテーマに話していただきました。話の中で「私の気持ちを付け加えてほめる。」「相手の気持ちを想像し、代弁してあげることで気持ちを確認する。」「あそこ(児童館・児童クラブ)に行

けばあの人がいると子どもに思ってもら。」ということが深く印象に残りました。ほめることだけではなく、トラブルへの対応も子どものこころを理解することへとつながるのだと学びました。グループディスカッション「自己肯定感を高めるための具体的な方法を考える」では、自ら手をあげ、活発に事例発表がなされました。実践してみようと思える事例がたくさんあり、明日からの児童館・児童クラブ活動に活かしていけると感じました。2日間の分科会を通して「子どものこころみること！気づくこと！寄り添うこと！」を話し合い、持ち帰ったスローガン(子どもに寄り添うための一押しという言葉、人に言われてニコツとなる言葉)を時々見て、分科会で得たことを思い出していただきたいと思います。分科会を担当した私たちだけではなく、皆さんの協力があったからこそ、分科会を楽しめたと思います。

参加者アンケートから

- ・1日目には、子どもの心に寄り添うための心掛けを改めて考えることができました。2日目は子どもたちの良い所を引き出すために自己肯定感を高めるコツや、自分たちができることを多く学べました。現場に戻り、行動に移していきたいと思えます。
- ・改めて子どもの気持ちに寄り添う、共感することの大切さを学ぶことができました。
- ・自分の抱えている問題を解くような話や今後の児童館での活動に参考になることも聞くことができ、良い機会となりました。
- ・色々な地域の人たちと初対面でしたが、会の運営の仕方が良かったため、気楽にそして真剣に話し合いができてとても有意義でした。

分科会Ⅰ 10月27日 16:00～18:00
 分科会Ⅱ 10月28日 9:30～11:30
 ウィンクあいち 12階 1210

男性職員

全国男会議 ～男性職員本音トーク～

問題意識

児童館・児童クラブの職員というと、世間ではどうしても女性の仕事というイメージが強くあるのが現実です。そんな中で、少しずつではありますが、男性の職員もみられるようになってきました。

そして、女性中心の職場の中での数少ない男性であるが故に、同僚、来館者問わず、女性とは違う「何か」を求められる場合も多々あり、そういったケースはこれからもっと増えていくと思われます。そこで、全国から児童館職員が集まるこの場で、男性職員が集まり、男性であるが故に普段職場で感じること、悩み、成功、失敗事例等を共有し、男性職員の存在意義を探っていく機会を設けたいと思います。力仕事や、やんちゃな子どもの相手だけではない、男性職員の本当の役割がみつけれられることを期待して、男性職員全国男会議を開催しました。

内容

■ 1日目

テーマ出し

男性職員として普段の業務で感じていること、男性職員が故の苦勞、悩みなど話し合いたいテーマをフリートークを交えながらあげていく。提示されたいくつかのテーマより選別し、5つの内容について討論する。

グループ討論

5箇所に設置された模造紙に、先にあげたテーマを1つずつ定め、各グループごとに定められたテーマについて討論し、模造紙に書きとめていく。10分ごとにテーマを変え、5つ全てのテーマについて各グループで討論する。

テーマ1

児童館の職員で男性職員が少ない理由は？
 なぜ少ない？なぜ続かない？

- ・まだまだ女性の職場という認識があり、男性の応募そのものが少ない。
 →偏見があるから？社会的地位が低い職業だと認識されている可能性。
- ・指定管理者制度に伴い、雇用が安定しない場合が多く、男性が働き続けるには環境が厳しい。
 →国が児童館・児童クラブの重要性を認識して、もっとお金を出してもらえれば…それには、男性職員としてという以前に、児童館・児童クラブの力を示さなければいけない。

テーマ2

保護者から求められる男性職員像

- ・体を使って屋外で遊ぶ楽しさを、子どもに教えて欲しい。
 →体操のお兄さんのような役割を期待されている(保護者から直接言われたことも)。
- ・男性職員は、叱り役だと思われている(保護者だけでなく、女性職員がそう思っている例もあり)。
 →性差により役割をわけるのか、個人のキャラで役割をわけるのか、子どもを叱ることに男女も関係ないのか、一概には言えない。ただ、男性から叱られることで必要以上に威圧感を感じてしまう場合もあるが、叱る側の性別より、叱り方が重要ではないか。



テーマ3

女性職員に対する接し方

- ・男性、女性に関係なく、上から目線で話さない(当然子どもに対しても)。
→下手に出すぎるのも問題だが、時には持ちあげる、褒めるなどして良好な関係を築いていくことが大切。信頼関係を築くことができれば、心強い仲間になる。
- ・男性から注意を受けると、威圧感を感じる。
→言葉遣い、抑揚に気を付けるしかないのか。パワハラ申告を出された例もあり。
- ・年下の女性職員は、年上の男性職員に遠慮しがち。
→仕事ぶりを認めるような話をするなどして、打ち解けていく、何でも話せる空気を作っていくことが必要。やはり男性ということに威圧感を感じているのか。

テーマ4

女子児童との接し方、かかわり方

- ・おんぶ、だっこ、膝に座るなど、体の接触は禁止されている(子どもの年齢に関係なく)。
→保護者からの目、世間体を気にして、過度な接触は避けるようにしているが、線引きがわからない。相手によって対応を変えるわけにはいかないので、全員に同じ対応(過度な接触をしない)をした所、本気で遊んでくれないとクレームがきた例もあり。
男児と女児で、意識的に対応を変えた(女児には過度の体の接触を避ける)所、女児から疎外されているのではという相談を受けたこともある。
- ・ひとつの空間での、女児との1対1は避けるように指導されている。
→結果、自分の身を守ることに繋がる。

テーマ5

男性の特性を活かした、子どもとの接し方

- ・特に男子児童とは、話が合わせやすい(スポーツや漫画の話など)
→ある程度意識的に、対等な立場で共通の話題について話すことで心を開いてくれる。ただし、線引きは必要。話がわかる職員がいるということで男児が集まるようになったが、小学生が多く来館する状況をよしとしない場合も。
- ・ダイナミックな遊びができる(子どもからも期待されている)

→遊びの中で信頼関係が築きやすく、言葉が伝わりやすい。女性職員からも、子どもに対して男性職員とそういった遊びがしてもらえると勤めることもあり、ひとつの存在意義となっている。

この他にもさまざまな意見が出され、討論が重ねられました。

■ 2 日目

全体討論

テーマ:

児童館・児童クラブにおける、男性職員の必要性は?

- ・害虫、害獣などの駆除、退治を任せられる。
- ・重い物の運搬など、力仕事を任せられる。
→期待される男性側の意見としては、男だからって全員力持ちなわけではない。期待に添えないと「男のくせに…」という感じで言われるのは、良い気持ちではない(セクハラでは?)害虫退治でも同様の意見あり。
- ・防犯の面で、男性がいてくれるだけで安心感がある(利用者側も安心できる)。
- ・苦情対応の面で、女性職員だけの時より、男性職員がいる時の方が、苦情が少ない…ような気がする(男性であるが故の威圧感があるのか?)。
- ・男性職員がいると、場が締まる(いつもやんちゃな子が控え目になる。子どもにとっては監視の目が強くなったと感じるのか?)反面、話を聞き出す、聞いてあげるのは、女性職員の方が上手、効果的な場合が多い(女性相手の方が話しやすい?)。
- ・一喝する際も、男性職員の方が効果的な場合が多い。
→あまり強く出すぎると、威圧的だととられ、苦情になることもありうる(実際にあった)ので、注意が必要。

あげられた意見のほとんどは施設についてのメリットでした。男性職員と女性職員で、やはり性差によるイメージから役割が分けられていることがわかります。それが果たして、良いことなのでしょうか、積極的に改善すべきことなのでしょうか。

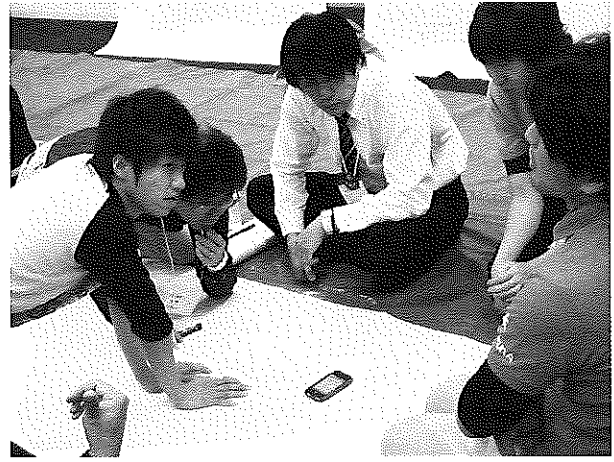
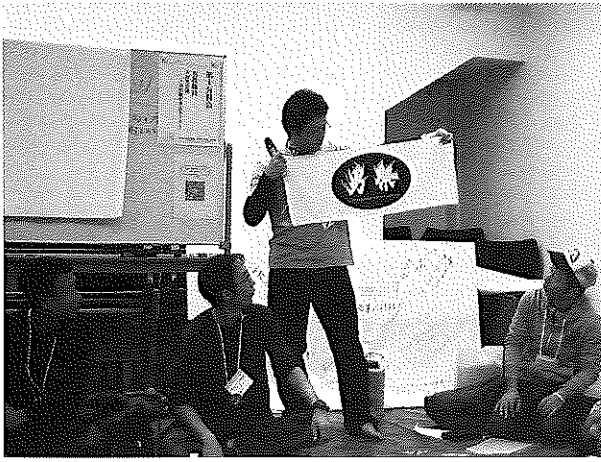
- ・私の館では、性別によって役割や仕事を分けずにしている、という参加者もありました。
→そういった指導はしているが、やはり男性と女性では、さまざまな事柄で許される範囲が違います。こちら側(上

の立場の者)で役割を分けるのではなく、職員自身が、できること、やるべきこと、やって良いことはどんな仕事かを考えて動くことが必要。(許される範囲、という部分では病院が良い例。女性看護師がしている仕事の多くは、世間的に男性がすることは許されないものが多い)

- ・特に不良っぽい子との接し方について、男性だから何とかなる、という例ばかりではない。小さな子どもと同じく、遊びを通じて信頼関係を築いていくことが大切。女性でもそれは可能であり、職員である以上、男女関係なくやるようになった方が良いのではないのでしょうか。

男性職員のこれから(まとめ)

- ・特に社会的地位、給与面の改善ができないと、男性職員の増加はなかなか望めません。そもそも児童厚生員という資格が曖昧なものではないでしょうか。資格取得に対して手当をつけるなど、社会的立場を向上できる仕組み作りができないでしょうか。
- ・児童館に社会福祉士の有資格者を置くという動きがあるらしいですが、社会福祉士の受験資格をみると、現役の児童館職員は受験することさえできません。もっと現実を見た、児童館職員のための資格制度があれば、男性職員の増加の可能性もあるのではないかと。
- ・そういった現状を改善し、半々とはいかないまでも、せめて全体の20%は男性職員が占めるようになって欲しいです(第2日目唯一の女性参加者より)。



担当から

普段、職場で抱えている問題や悩みなど同性でしか共感出来ないことも多々あったと思います。皆それぞれ経験年数や経歴の違う幅広い参加者層の中で、思わず頷いてしまう意見や、なるほどそういう考えがあったのかと新たな発見もありました。熱い語り合いの中で参加者として入れないことを悔しくも思いました。本当に有意義で貴重な時間となりました。

男性や女性といったくくりではなく、さまざまなタイプの職員がいることが大切なのだとし話し合いの中で感じました。社会的な地位の向上などまだまだ問題はたくさんありますが、全国に仲間がいるという心強い気持ちを抱きながら、今大会のテーマであったプロとしての意識を持ち日々の業務にあたっていきたいと思えます。

全国大会でも類をみない分科会で不安との戦いでしたが、無事に開催することができました。何よりも全国の男性職員だけの分科会ができたことを本当に嬉しく思います。(祖父江)

女性中心の職場において、同じ男性という立場からの意見も欲しいと思うことや、周りに男性の職員がいないため、相談したり、共感、共有できない、といった現実を、どの児童館・児童クラブ職員も少なからず抱えていることが、全国男会議を開催したことで明らかになりました。この分科会に参加してもらったことで、そういった悩みが少しでも解決できたのであれば、嬉しく思います。さまざまな地域、年代の参加者と議論する中で、実際の事例にもとづいた問題点、それについての対応、解決手段や、各々が考えているこれからの男性職員像などを聞くことができたことは、私自身非常に勉強になりました。そして、全国から集まった男性職員とつながり、仲間意識を持つことができたことは、励みになりました。この分科会で得たことをこれからの職務に活かし、「子どもにかかわるプロ」像を追求していきたいと思えます。(鷺見)

参加者アンケートから

- ・想いは伝わった!
- ・全国の男性職員と共感し、つながりを持てた。
- ・nice! 男祭サイコー。
- ・職員配置の面からも、全国男会議は大変参考になりました。
- ・男祭楽しかったです。
- ・色々な意見があり、男性、女性関係ないのかなと思いました。議論した内容もさることながら、男性職員のみで集まり、男性職員同士だからこそわかりあえる、共感できる場に参加できたことに満足感、充実感を持ってもらえたように思います。アンケート結果から、全国の児童館・児童クラブ男性職員の熱い想いを爆発させたい! というこちらの意図は参加者に伝えることができたのではないかと思います。

出前じどうかんーみんなのあそびばー

10月27日 10:00~15:00
JRセントラルタワーズ タワーズガーデン

内容

「日本のどまん中であそびを叫ぼう!!」をテーマに全国から仲間が集まり、児童館・児童クラブ発の遊びの楽しさをアピールしました。遊びのコーナーには11団体が出店し、ステージには8団体が出演しました。遊びのコーナーは開催場所の条件から「ひとつのテーブルでできる遊び」とし、小さなスペースでも楽しめる遊びを募集したところ、子どもの心をガッチリつかむ遊びが大集合しました。どんな場所や条件でも、遊び心と工夫によって楽しい「遊び場」に変えてしまうという児童館・児童クラブ職員の知識や柔軟性を実感しました。また、ステージでは、子どもたちの元気な演技発表やみんなが参加できるクイズ、思わず体を動かしたり手拍子をしたくなるような歌やダンスのパフォーマンスが繰り広げられました。秋晴れの空の下、1500人の親子の来場があり、会場は子どもから大人までたくさんの笑顔があふれる一日となりました。

出店団体

滋賀県	児童館連絡協議会 びわっ子	スイーツキーホルダーを作ろう
愛知県	東浦町児童館	ころびーを作ろう
愛知県	稲沢市児童センター11館	スッキリ 一発!!
愛知県	岩倉市児童館	ころころ【ど】ッカーン!
愛知県	北名古屋児童館・児童クラブ	北なごやし 未来旅行 ハートをキャッチ
愛知県	名古屋市児童館	のぼれ!金シャチくん!!
岐阜県	ぎふチマチマ工作隊	革とトンボ玉のストラップをつくるっけ
愛知県	安城市7児童センター	やってみよう
愛媛県	えひめこどもの城	てんてんカラーパネル
愛媛県	松山市内児童館	どまん中でつながれ!!おえかきしりとり
岩崎研究室 (金城学院大) 遠藤研究室 (中京大)		電気を学ぼう!〜つくる・ためる・つかう〜
あいち大会	あそびばスタッフ	テメイシ イモムシごろごろ

ステージ出演者

ザ・ジートニー [The Get 2]	ギター演奏によるうた遊び
愛知県 愛西市児童館	ジャグリングあそび
北海道 チームIMBさっぽろ	「はらぺこあおむし」の歌い語り
愛知県 名古屋市児童館	サバイバル!じどうかん ○×クイズ!!
Kimmy☆	シンガーソングライターママによるミニライブ
北なごや発 夢☆列車	よさこい系ダンス
愛知県 はぐみんキャラバン隊	愛知県子育て応援事業PR
POC★LOVE	バトントワリング

アンケートから

- ・ 駅を出てすぐの好立地での開催。楽しい遊びにふれて心癒されました。
- ・ 道順のように線路を作ったのは、楽しめるしわかりやすかったです。
- ・ 実際に子どもが遊んでいて、楽しそうで、児童館での活動に活かす想像ができました。
- ・ 色々な人とふれあえて良かったです。(出店者)
- ・ すごくたくさんの人に喜んでいただけて良かったです。楽しかったです!(出店者)



オープニング。子ども達と一緒にうた遊び♪



ポンチで革を切り抜いて、ストラップ作り



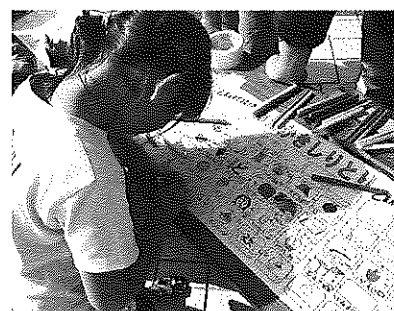
あそびばへようこそ！スタンプを押してね。



どこから出てくる？手作りモグラたたき



イモムシくん 線路の上を走ります。



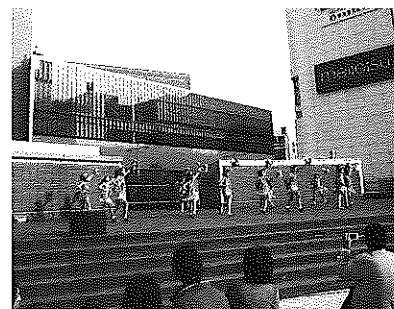
おえかきしりとり。次はどんな絵が描ける？



並べて・積んで・てんでんカラーパネル



笑顔と元気をいっぱいひせて 出発進行！！



手作りの衣装で登場！華やかなバトン演技☆



〇×クイズが始まるよ！ステージに集まれ～



的を狙ってハートのチップを水中へ「えい！！」



「歌い語り」メロディーに乗せてお届け♪



ボールを落とさないようにゴールを目指せ!



スイーツのトッピングはビーズでカラフルに。



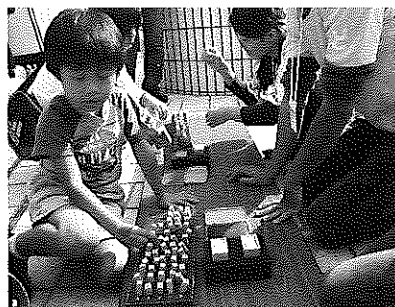
ガチャポンがかわいい「ころびー」に変身!



発電機のハンドルを回すと…何が起る!?



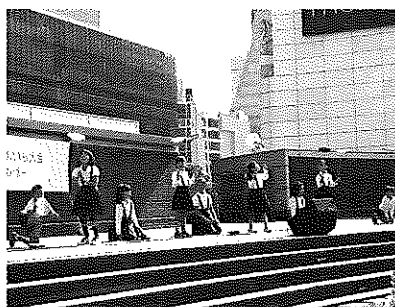
金シャチくん、どこまで高く積めるかな?



手の甲に枠と名前をスタンプ。テメイシ完成!



身近な素材の手作りおもちゃ大集合。



2つ同時に皿回し。難しいワザにも挑戦!



ママシンガーの心温まるミニライブ♪



名古屋駅前に—みんなのあそびば—出現!!



はくみんも登場!一緒に踊ろう♪



学生ボランティアも大活躍!!

出前じどうかん—まなびのあそびば—

10月27日 10:00~12:00
ウインクあいち 6階展示場

内容

出店団体数 12 団体、出店スタッフ数 106 人の協力を得て、総勢 556 人が遊びを通して「子どもにかかわるプロ」としての一步を踏み出す「遊びの学びの場」となりました。

「あそびの B 級グルメコンテスト」と題し、“身近で日常的に遊ばれている子どもたちに人気の遊び”を、遊びの「ねらい」が掲載された「遊びのレシピ」と合わせて、参加者へ発表しました。また参加者からは、それぞれの出店団体へ向けて「〇〇賞」に投票するという形で遊びの感想を伝え、出店者、参加者ともに学び合いました。

コンテストの結果は、投票総数 1126 票が集まり、各出店団体へは「マネしたい de 賞」「ナイスプログラム賞」「学びました賞」「でらおもしろい de 賞」「グッドアレンジ賞」「そーきたか賞」が贈られました。また、「子どもと一緒にあそびの原点に」「さすがプロ!」「帰ったら研修しよう」「やってみたい!! 満載!!」などの感想も寄せられました。

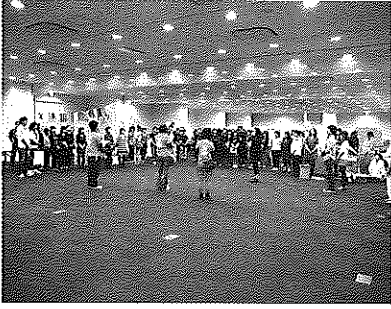
特設コーナーとして「いわて子どもあそび隊」の活動発表のパネル展示を行い、活動の様子とともに東北沿岸部の児童館・児童クラブの現状を知り、心寄せる場となりました。

出店団体

愛知県	愛西市児童館	ハスの実飾り作り
愛知県	一宮市立児童館25館	あそびのアラ(ツ)?・カルト ～ブンブンごま・アルミ虫・天下ゲーム～
愛知県	春日井市3児童館	強いぞ、われらの段ボールブリッジ
愛知県	蒲郡市7児童館	恐竜の骨さがし
愛知県	北名古屋市児童館・児童クラブ	北なごやにキターーーーーー! ～みんなでワク2 あそんでワク2 自主研修の深イイ話～
愛知県	東郷町児童館	TeaラボTO!GO!
東京都	子どもアミーゴ西東京 ひばりが丘児童センター	「だるまさん」屋さん
愛知県	名古屋市児童館	キャラハント～〇〇さがし～
愛知県	半田市7児童センター(館)	秋の新聞紙大運動会
滋賀県	大阪府 広島県 佐賀県 特1遊びの仲間	遊びの和・話・輪
北海道	札幌市児童会館 (財団法人札幌市青少年女性活動協会)	EZOブユッフエ
特設	岩手県 いわて子どもあそび隊	「わすれない」 —いわて子どもあそび隊の活動紹介—

アンケートから

- ・出店者としてとても楽しく参加することができました。たくさんの人と話ことができとても良かったです。
- ・一気に目がキラキラしてしまいました。「これはもらった!」「児童館すごい!」「ヤッター!」という感じでした。
- ・出店者側としては、工夫した所をほめていただいたり、自分たちの所でも取り入れてみたいと言ってもらってとても嬉しかったです。又、他の館のあそびばをまわり、館の先生方が自信を持って紹介、展示して下さったさまざまな遊びは、本やインターネットから集めた遊びよりも、すごく実践的で、目で見て触ったり体験できたことは、明日にでも児童館で活かそうなものばかりでとても勉強になりました。



朝のスタッフの打ち合わせ。いよいよです！



開場を待つ人の行列



身近な素材で運動会



一つの素材から無限の遊びが生まれます。



「遊びのレシピ」には「ねらい」も掲載



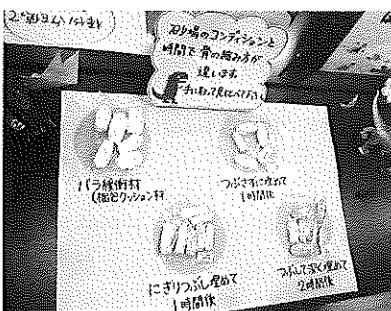
「聴く、見る」だけでなくしっかり「体験」



北海道の自然を運んで来ました。



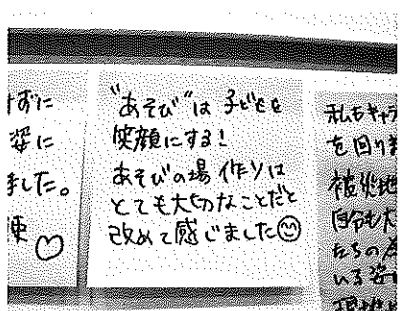
おもちゃを優しく扱う子ども達を思っ
て...



出店者の遊びの研究の成果！



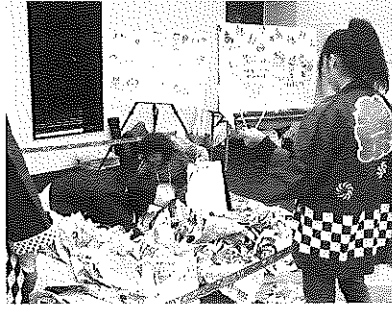
アレンジ「だーるまさんがあーころんだ！」



「いわて子どもあそび隊」に寄せられた感想



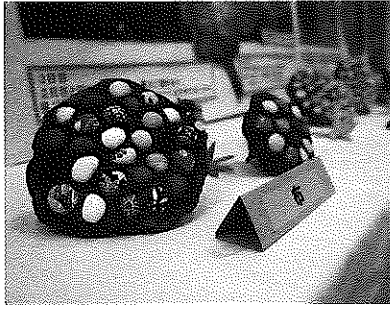
出店者と参加者との会話も弾みます。



遊びを広げる為のヒントがいっぱい！



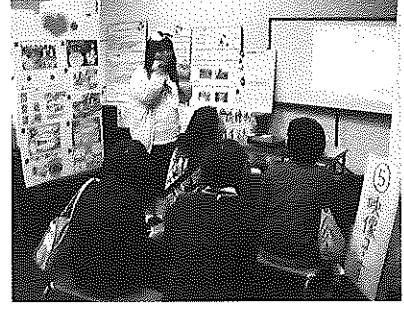
子どもたちの笑顔を思い浮かべ、真剣！



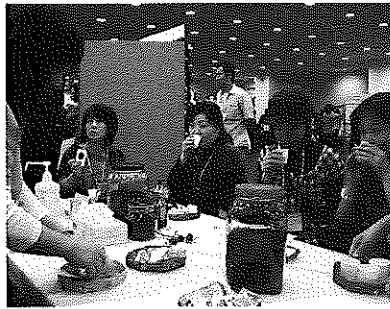
特産物を使った工作が魅力的です。



馴染みの遊びも、研究すると奥深い



遊びの検証DVD上映中！



ホッと一息、食育を学びます。



300人通ってもビックともしない段ボールブリッジ



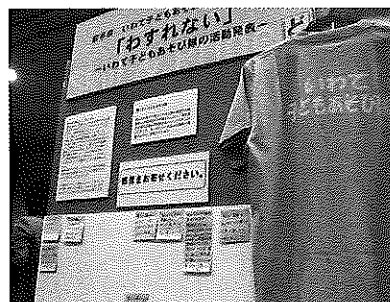
段ボールブリッジの仕組みを学んでいます。



各ブースの感想を投票用紙に託して…



特大「ブンブンごま」回せると嬉しい!!

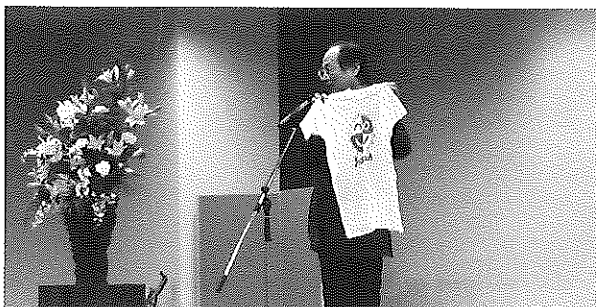


時間と距離が離れても「わすれない」

交流会

あいちへようこそ！全国300名以上の仲間が集結
久しぶりの再会にワクワク・ウキウキ
初めての出会いにドキドキ

10月27日 18:30~20:30
ウインクあいち 6階展示場



全国児童厚生員研究協議会・千葉会長の“歓迎の言葉”に続き、愛知県政策顧問・山本保氏から祝辞をいただきました。

「第12回全国児童館・児童クラブあいち大会」おめでとうございます。今日は私が厚生省におりました時に開催された大会のTシャツを持ってきました。これです。

児童館は絶対に必要です！児童健全育成のために皆さん頑張ってください！



愛知県児童総合センター・石原センター長の音頭で“乾杯”

分科会でエネルギーを燃え尽くした皆さんの食べっぷりは見事！みるみるうちに食べ物が消えていきました。

名古屋めしとして「天むす」「手羽先」「みそカツ」を用意させていただきました。

皆さんのお口に合いましたでしょうか？



『あそびのB級グルメコンテスト』午前中に開催された「まなびのあそびば」に出店くださった皆さんへ「でもおもしろいde賞」「そーきたか賞」などの表彰をおこないました。



東海3県では、伝説の小学生参加番組「天才クイズ」をあいち大会バージョンにしておこないました。

チーム対抗でOイエスカ×ノーの帽子をかぶって答えるゲームです。

天才賞(優勝チーム)に輝いたグループの代表者は、北海道札幌からの参加者でした。おめでとうございます！

また、児童館職員のユニット「The Get 2」のミニライブでも盛り上げました。



参加者全員で記念撮影「私は、ぼくは、どこかしら？」…探せますか？



最後に、育成財団依田事務局長にごあいさつをいただきました。

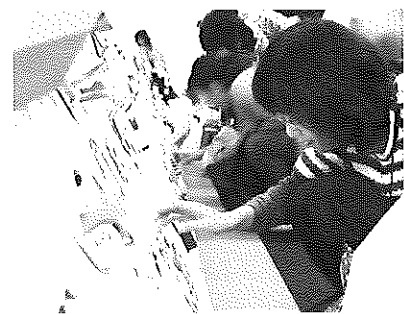
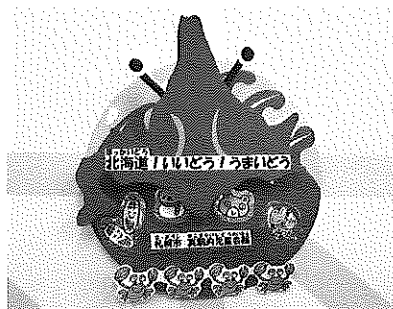
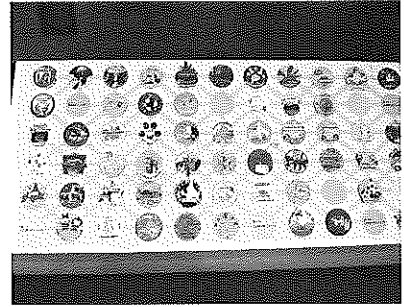
皆さまをお迎えした段ボール武将隊(交流会担当者)も一緒に！

2次会にも100名以上の方に参加していただき交流を深めることができました。

皆さま、遅くまでお付き合いいただきありがとうございました！

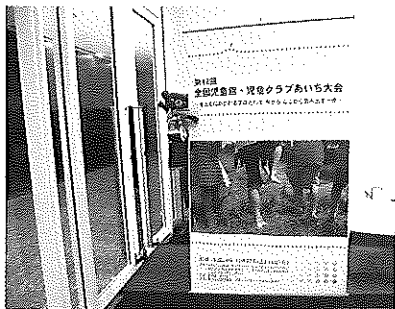
アピールカード

「愛知県内の全児童館・児童クラブの仲間とつながりたい」「アピールしたい」「全国の児童館・児童クラブともつながりたい」そんな思いから始まったアピールカード。北は北海道から南は沖縄まで沢山の参加がありました。全国の仲間の熱い思いが沢山つまったアピールカードはどれも力作ぞろいで愛知県内からは324枚、全国からは216枚集まりました。ありがとうございました。



インターミッション

ウインクあいち ホワイエ



北海道から応援に来てくれた「くま吉」も一緒に、皆さんとお会い出来るのを今か今かと楽しみにしています。



ボランティアさんも加わりいよいよ開催が目前まで迫ってきました。受付にて緊張の中、皆さんを待っています。



緊張とワクワクの瞬間。ようこそあいち大会へ！！おもてなしの心で皆さんをお迎えします。



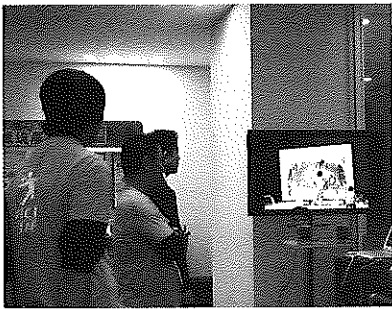
短いやりとりの間も笑顔を抑やさないう、おもてなしの心で。



「The Get 2」が歌う公式テーマソング「ぼくらの児童館」は大会を大いに盛り上げてくれました。



東日本大震災の被災地にある児童館・児童クラブで撮影された「僕らは今を生きている」写真展。子ども達の笑顔に元気もらいました。



ホールから生中継される映像を、ホワイエのモニターでチェック。ライブペインティングの様子もぼっちり映っていました。



前日の一場面。着々と開催準備が進められています。皆さんに配布するプログラムを一つ一つ心を込めて詰めています。



スタッフ束の間の一場面。箱の致に圧倒されながらも、笑顔は忘れません。



全国から集められたアビールカードの展示では「私の絵のあった!」「こんなもあるんだあ」という声が飛び交っていました。



どNEWSの最終号をお見送りと共に皆さんへお渡ししました。お土産代わりに「あいち大会」の思い出を!



最終号の「どNEWS」には、大会に参加した皆さんの感想を掲載しました。表情からも、楽しい気持ちが伝わってきます。

スイッチを入れる会

10月28日 12:00~12:30
ウインクあいち 2階大ホール

内容

「子どもにかかわるプロとして今からここから踏み出す一歩」をテーマに、2日間を通して体験したこと、感じたことを振り返り、心に芽生えた想いを明日につなげるための時間として「スイッチを入れる会」を実施しました。2日間で印象に残ったことを振り返りながら、今後の自分がどうあるべきかを10人の方に発表していただきました。同時にそれぞれの自分の想いをボールに表し、会場に向かって投げてもらいました。ボールにはそれぞれ色によって違う想いが込められています。

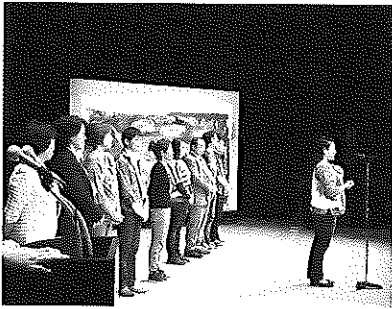
- ※赤…熱い想い
- 青…クールな想い
- 黄…元気な想い
- 緑…晴れやかな想い

また、壇上で発表していただいた10人の方たちが投げたボールは次の色です。

- ・山川元喜 - 赤
北海道札幌市東白石児童会館
- ・伊藤正子 - 緑
愛知県犬山市羽黒児童センター
- ・村瀬次郎 - 黄
福井県こども家族館
- ・上木秀美 - 青
愛媛県えひめこどもの城
- ・古田稔幸 - 赤
岐阜県柳津児童館
- ・水野かおり - 緑
東京都台東区寿児童館
- ・神谷陽子 - 黄
神奈川県川崎市片平こども文化センター
- ・吉村賢 - 青
愛知県名古屋市西児童館
- ・大山真紀 - 赤
沖縄県那覇市大名児童館
- ・木戸りえ子 - 緑
静岡県浜岡中央児童館

そして、発表者の想いは次のとおりです。
(一部抜粋)

- たくさんの出会いやつながりを得ることができ、元気やパワーをもらった。これからの仕事につなげたい。
 - 児童館をめぐる環境は安易なものではないが、子どもが中心で輝く場所を作っていきたい。
 - 自らアクションを起こしたり、一歩前に進むことをがんばっていきたい。
- 10人の発表後、大会スタッフよりそれぞれの想いを込めて、1000個のボールを会場に向かって投げました。それを会場のみなさんに受け止めていただくことによって、会場全体に一体感が生まれ、感動を分かち合うことができました。そして、会場全体がひとつになったところで、自分の中に芽生えた想いをスイッチオンの掛け声とともに胸に刻み込むことができたと思います。



最後に、愛知県東郷町の現役児童館職員でもある「The Get 2」の演奏で、あいち大会のテーマソング「あいちのじどうかん」を会場のみなさんと一緒に歌いました。この歌は、愛知県の児童厚生員から集めた言葉を「The Get 2」の2人がメロディーにのせたものです。再び会場が一体になったところで、閉会式へと移りました。



閉会式

10月28日 12:30～13:00
ウインクあいち 2階大ホール

■ 主催者あいさつ

公益財団法人愛知公園協会理事長
近藤 薫



第12回全国児童館・児童クラブあいち大会を閉じるにあたりまして主催者を代表してごあいさつ申し上げます。

公益財団法人愛知公園協会は、愛知県の県立児童館である、愛知県児童総合センターを指定管理している団体です。

児童総合センターの仕事は、建物としてのセンターに来た子どもたちと昔子どもだった方々に遊びと遊び場を提供することと、県内の市町の児童館とつながって情報交換して共有し、切磋琢磨して全体のスキルアップ・レベルアップを図っていくことです。

このあいち大会は、去年のプレ大会を含めまして、3年前から準備を進めてきました。もちろん、児童健全育成推進財団や全国の仲間の皆さまに助けていただき、3年間で培ったネットワークを活かし、8人の実行委員と54人の企画委員で準備を進めてきました。

スイッチを入れる会で改めて、「子どもにかかわるプロ」としての明日からの仕事への思いを新たにしたいと思っています。

子どもは未来です。この困難な時代に、子どもたちがきちんと社会化できるように見守っていく皆さま方の仕事これからますます重要になっていきます。

ここにお集まりの皆さまの益々の活躍を期待しております。

最後になりましたが、大会の開催にあたりご指導いただきました児童健全育成推進財団並びに全国児童厚生員研究協議会の皆さま、そして参加して下さった全ての皆さまに厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

では皆さん、来年は東北で、その翌年は、東京でお会いしましょう。

■ 企画委員紹介（多治見企画委員長より）

■ 企画委員長挨拶

全国の皆さんとつながれたことは、私たちあいち大会のスタッフが一步を踏み出す大きなチカラになることと確信しています。本当にありがとうございました。

■ 閉会のことば（西澤実行委員長より）



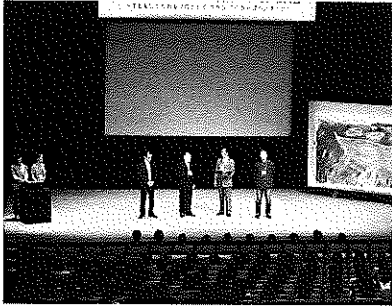
全ての関係者の皆さま、並びに大会にご参加いただきました全ての皆さまの温かい励まし、ご声援に心より感謝申し上げます。

来年の東北復興支援フォーラム、第14回全国大会（東京）が皆さま方のご支援で盛大に開催され、全国の児童館・児童クラブが益々発展して参りますことをご祈念いたしまして、第12回全国児童館・児童クラブあいち大会を閉会させていただきます。

本当に皆さま、ありがとうございました。

全国児童館・児童クラブ関係者へ発議

全国児童厚生員研究協議会長
千葉 雅人



平成7年からスタートした全国児童館・児童クラブ大会は12回となりました。今回、あいちの仲間たちのほとばしるエネルギーによって、仕事への誇りを再確認し、明日からのモチベーションを高めることができました。本当にありがとうございました。このように、感動的で研修としてもとても効果的な全国大会を、何としても継続開催していかなければならないと改めて痛感いたしました。本日まで参加の皆様もそう感じていらっしゃるのではないのでしょうか？

..... 会場から拍手

そこで、私達、全国児童厚生員研究協議会は、次回の大会について提案をさせていただきます。

私達はこの秋から「東京・児童館月イチ学習会」を立ち上げました。児童館の今をしっかりと認識して、これからの児童館を考える会です。横のつながりがちょっと弱かった東京の緩やかなネットワークを作ろうと思って始めたものです。

今、児童館は過渡的な立場にあると考えています。行政の財政難、指定管理者制度、類似施策の台頭、児童厚生員の非常勤化など、児童館を発展させるために障壁となる課題が少なくありません。放課後対策の地域格差も発生しているように感じます。東京では平成24年3月に、東京都児童会館が閉館になりました。そして国立総合児童センターこどもの城が、平成27年3月をもって閉館というのは皆さんもご存知だと思います。

そこで、児童健全育成のシンボルとして活躍してきたこどもの城の功績に敬意を表し、また、東京都の児童館のネットワークを再構築する意味から、全国大会を平成26年度に東京で開催させていただくことをご提案したいと思います。

この後、千葉会長は東京大会の実現のためには、2つの要件が欠かせないと述べました。

1つめに「こどもの城の協力」を挙げ、佐野真一さん(公益財団法人児童育成協会こどもの城事業本部長)に登壇を促しました。佐野さんは、こどもの城の閉館の経過について説明するとともに、国立の児童館の総まとめとして東京大会に協力したいと述べました。

2つめは「育成財団の協力」を挙げ、依田秀任さん(財団法人児童健全育成推進財団事務局長)に登壇を促しました。依田さんは、組織を挙げた協力を約束するとともに、東京大会開催の前年の平成25年度に東北での復興支援フォーラムの開催を提案しました。

参加者から満場の拍手により賛同の意が表されました。

そして、鈴木一光さん(財団法人児童健全育成推進財団理事長 兼 公益財団法人児童育成協会こどもの城常勤理事)にも登壇を促し、その確認を求めました。鈴木さんもこれを受け、さらに全国関係者に協力を求めました。

このプロジェクトはここにいる皆さん、それから全国の児童館・児童クラブの仲間たちにも協力していただかなければ実現できません。皆さんの強いご支援をいただけるかどうか、もう一度意思表示をお願い致します。

..... 会場から拍手

ありがとうございます。それでは、改めまして私たちは、平成26年度に東京大会を、そしてその前年には東北で復興支援フォーラムを開催することを発議いたします。よろしくをお願いします。

大会を終えて

企画委員長
多治見 里美



日本のど真ん中“あいち”で初の「第12回全国児童館・児童クラブあいち大会」が全国各地からの大勢の皆さまの参加により盛大に開催することができましたことに厚くお礼申し上げます。

今大会は、サブタイトルを～子どもにかかわるプロとして今からここから踏み出す一歩～とし、児童館・児童クラブの職員をはじめ、そこにかかわる関係者の皆さまにとって大きな一歩になる大会を目指してまいりました。この言葉に込めた私たち企画委員の思いを全国から集まる皆さまにどう伝えていくのか、どうすれば皆さまの明日に繋がる大会にできるのかを考え、企画委員で議論を重ね、準備を進めてまいりました。それでも、不安な気持ちを拭うことはできず、こうした中で多くの皆さまの協力を得て、たくさんの人に支えられ、貴重な助言を受けながら何とか本番当日を迎えることとなりました。不安な気持ちは最後まで消えることは無く、そのまま当日を迎えた私たちを支えてくれたのは、このあいち大会に参加してくださった大勢の皆さまの温かい言葉やまなざしでした。皆さまの協力なくしては、この大会の成功はなかったものと思っております。

自分たちの意識を、全国の仲間とともに変えるという思いを持って開催した「あいち大会」が、皆さまにとっても“変える”きっかけとなる大会となったのであれば幸いであり、そうなることで初めてこの大会が成功だったと言えるのだと思います。

今大会を陰ながら支えていただいたボランティアや関係者の皆さま、大会の開催に向けて厳しくも優しい助言をいただいた実行委員の皆さま、仕事が忙しい中私たちを快く送り出してくれた職場の仲間、そしてなにより全国から参加いただいた子どもに携わる皆さまに企画委員一同、心から感謝しております。何かと行き届かないことが多々あったと思いますがご容赦いただきますようお願いいたします。

最後に、参加いただいた皆さまが、それぞれの地域へ戻り、子どもたちにこの大会で得た成果を存分に発揮いただきますことを切に願いお礼のあいさつとさせていただきます。

子どもにかかわるすべての人にスイッチon!!

広報活動

第12回全国児童館・児童クラブあいち大会を広く周知する為に、様々な媒体を用いて広報活動を実施しました。大会要項の制作、発送だけでなく、全国の仲間たちとのつながりアイテムとして「アピールカード」の作成協力を全国の児童館に向けてPRしたり、大会参加を呼びかけたチラシを持参し各地の研修会場で直接思いを伝えたり、PVを作成し県外の研修会場においてPRの協力をお願いしました。また大会の情報を愛知県内の広報誌等に掲載し、メディアを通じて児童館・児童クラブの職員だけでなく、広く一般の方にも周知しました。加えてブログやTwitterといったツールを活用し、遠方の参加者にも大会を身近に感じていただけるよう、準備風景や委員からのメッセージを随時配信しました。大会当日はカメラやビデオ機材等で会場取材し、ウインクあいちでの様子やJRセントラルタワーズタワーズガーデンでのあそびの様子を撮影。リアルタイムで写真のデータを取り込んだ『どNEWS』の発行や、Ustreamでの動画配信を行いました。両日共、違う側面からの会場の雰囲気も楽しんでいただけたのではないのでしょうか。



児童館・児童クラブに関わる職員向けの研修会では時間をいただき、大会の概要説明と参加を積極的に呼び掛け、愛知県内のみならず全国から大勢の参加申し込みがありました。『出前じどうかんーみんなのあそびばー日本のどまん中であそびを叫ぼう!!』のポスターも作成し、多くの一般の親子が参加していただきました。



ブログを使った広報の一環として、委員それぞれが大会当日までの日数を毎日カウントダウンしていきました。日替わりで登場する個性的な写真と、次第に減っていく「あと〇日」の数字で、準備期間が盛りあがりました。また会場へのアクセス方法等、ブログに細やかな情報を掲載することで紙媒体の補完を行いました。



大会当日はTwitterやUstreamを用いて2つの会場の「今」を配信したほか、撮影したばかりの写真を使用して新聞形式の『どNEWS』を発行しました。また1日目に撮影した写真や動画を編集し、ニュース映像を作成。2日目からの参加者にも前日の様子を知っていただこうと、YouTubeおよび受付協のモニターに映し出しました。

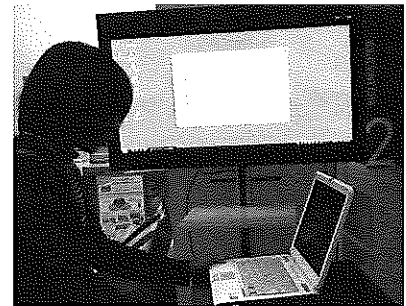
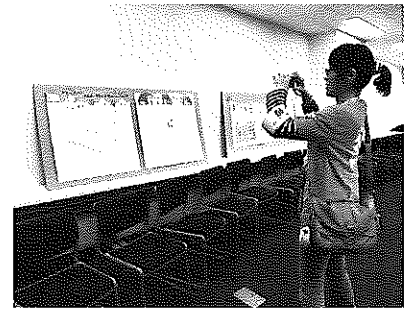
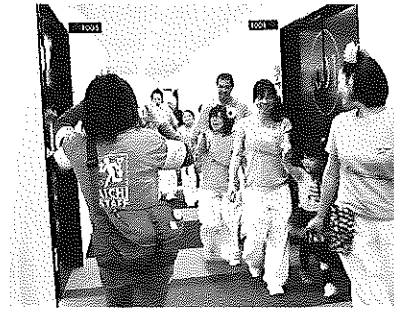


CBCラジオ「広瀬隆のラジオでいこう！」で出前じどうかんーみんなのあそびばーの生中継がありました。レポーターがあそびばの趣旨や全国大会のことを踏まえながら、あそびば会場全体の楽しい雰囲気そのまま紹介しました。インタビューに答える形で、子どもにとっての遊びの大切さや児童館の必要性なども伝えることができました。またクイズ形式でスタジオとやりとりしながら、個々の遊びのブースを紹介しました。

事前の打ち合わせで、しっかり理解していただいたので、ラジオを聴いている人にもわかりやすく伝わったと思います。

また、あいち大会の「今」をよりタイムリーに皆さまへお伝えしたいという思いから、2日間で3回にわけて「どNEWS」と称し、新聞形式で情報紙を作成しました。1号目は受付時に、2号目は1日目の分科会後に、3号目はあいち大会閉会式後、会場出口にて配布しました。また、2日目から参加の方にも1号から手にとってもらえるよう受付にて配布しました。掲載内容としては、基調講演やライブペインティング、全国から多くの仲間が集まって開催された分科会や交流会の様子、あいち大会をより楽しむための情報等を、写真と合わせながら紹介しました。

また、各プログラムの報告のみならず、スタッフの心の声を集めてみたり、名古屋名物を取り入れた仕掛けなど、随所にあそび心も加え、より愛らしさを出し、参加の方に楽しんでもらいたいという思いで作成しました。



当日のプログラムと共に、あいち大会へようこそ！の気持ちを込めて配布しました。全国から届けていただいたアピールカードの紹介や、1日目の見どころ、スタッフの心の声MAPや、TwitterやUstream等を使用した、インターネット上でのあいち大会の楽しみ方をお知らせしました。

2号目は、「出前じどうかんーみんなのあそびばー～日本のどまん中であそびを叫ぼう!!～とーまなびのあそびばー～あそびのB級グルメコンテスト～や、あいち大会開会式の様子、心理テストを加えたアンケート、裏面には荒井良二氏によるライブペインティングで一枚の絵が完成するまでの写真を掲載。

3号目は、2号のアンケートより、あいち大会参加の方からの感想を紹介しました。また、大会テーマでもある「プロ意識」や「専門性」について深く考えさせられた、福島文二郎氏による基調講演の様子や、全国からの熱意が集まり大いに盛りあがった各分科会の様子等も合わせてお伝えしました。

委員名簿

第12回全国児童館・児童クラブあいち大会 実行委員

	役 職	氏 名	所 属
1	委員長	西澤 章	愛知県児童館連絡協議会長
2	副委員長	加藤 久美子	名古屋市児童館連絡協議会長
3	委 員	依田 秀任	財団法人児童健全育成推進財団 事務局長
4		千葉 雅人	全国児童厚生員研究協議会長
5		東野 正之	公益財団法人愛知公園協会 総務課長
6		石原 邦彦	愛知県児童総合センター長
7	監 事	尾崎 亨	愛知県健康福祉部子育て支援課長
8		小沢 良行	名古屋市子ども青少年局青少年家庭部青少年家庭課長

企画委員

	担 当	氏 名	所 属
1	企画委員長	多治見 里美	春日井市子育て子育て総合支援館
2	開会式・交流会	牛田 富江	津島市中央児童館
3		岩井 小百合	あま市基目寺中央児童館
4		則武 春菜	東浦町石浜西児童館
5		稲熊 光子	瀬戸市せとっ子ファミリー交流館
6		柴山 啓子	岩倉市第四児童館
7		溝口 博	豊山町総合福祉センターしいの木
8		講演会・閉会式	鈴木 深雪
9	越野 祐子		一宮市社会福祉事業団事務局
10	山下 綾子		北名古屋市西之保児童館
11	西村 高幸		江南市交通児童遊園
12	石川 真理		碧南市こどもプラザららくるにしばた
13	分科会	高橋 由香里	北名古屋市鍛冶ヶ色児童館
14		築山 佳子	安城市子育て支援課
15		内藤 たつ子	稲沢市大里東チューリップ児童センター
16		林 すわ子	犬山市羽黒児童センター
17		佐藤 明世	犬山市犬山南児童センター
18		岡野 明子	西尾市中央児童館
19		牧野 則子	安城市子育て支援課
20		大口 喜子	あま市子育て支援課
21		宮地 孝恵	清須市星の宮児童センター
22		邨瀬 知香子	弥富市弥生児童館

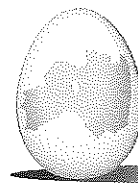
	役 職	氏 名	所 属
23	分科会	佐藤 典子	弥富市児童課
24		丹羽 ひとみ	江南市宮田児童館
25		鈴木 詳子	小牧市児童センター
26		福田 幸子	北名古屋市中村児童館
27		板垣 由美	春日井市子育て子育て総合支援館
28		櫻井 環	瀬戸市交通児童遊園
29		青山 愛	名古屋市守山児童館
30		橋爪 陽子	清須市春日児童館
31		後藤 かをり	元愛知県児童総合センター
32		土田 由佳	弥富市白鳥児童館
33		小林 龍美	一宮市起児童館
34		岩間 竹子	愛西市佐屋西児童館
35		長尾 千賀子	愛西市永和児童館
36		祖父江 司	東郷町兵庫児童館
37		鷺見 広孝	小牧市味岡児童館
38	あそびば	佐藤 泉	東郷町北部児童館
39		熊澤 明美	春日井市交通児童遊園
40		鈴木 由衣	北名古屋市中村児童館
41		畑佐 俊行	清須市清洲児童センター
42		森田 真理子	名古屋市とだがわこどもランド
43		中山 幸節栄	半田市乙川児童センター
44	広報・記録	菅谷 享弘	北名古屋市宇福寺児童館
45		安本 美千子	北名古屋市九之坪児童館
46		都馬 路江	小牧市西部児童館
47		岩井 百希恵	小牧市篠岡児童館
48		宇佐見 協子	稲沢市小正すみれ児童センター
49		久保田 真由	名古屋市熱田児童館
50	事務局	西田 勝己	春日井市青少年こども部子ども政策課
51		林 茂樹	公益財団法人愛知公園協会 総務課
52		上野 裕	愛知県児童総合センター
53		阪野 大介	愛知県児童総合センター
54		高阪 麻子	愛知県児童総合センター

告知 次回大会決定

第13回
全国児童館・児童クラブ大会「東北復興支援フォーラム」

平成25年12月14日[土]～15日[日]

- 講演・分科会
会場：コラッセふくしま
JR福島駅西口より徒歩3分
- 交流会
会場：福島ビューホテル
JR福島駅西口すぐ
- 遊びの公開ラボ
会場：こむこむ
JR福島駅東口より徒歩3分



ふくしまから
はじめよう。

Future From Fukushima.

第12回全国児童館・児童クラブあいち大会 報告書

平成25年2月 発行

■ 編集・発行
第12回全国児童館・児童クラブあいち大会実行委員会

■ 問合せ
第12回全国児童館・児童クラブあいち大会実行委員会 事務局
〒480-1342
愛知県長久手市茨ヶ廻間乙 愛知県児童総合センター内
TEL 0561-63-1110
FAX 0561-63-1116
E-mail switch-on@acc-aichi.org

